Feed Trade

WEB版

VOL. 58 NO. 3



2022 7~9

飼料輸出入協議会

JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION

Feed Trade WEB版 Vol.58 No.3

2022年 7~9月号



目 次

く海軍セミナー>

ドライバルク船マーケット動向とロシアのウクライナ侵攻の影響……(3)

講師:中島 正歳氏

理事長新任あいさつ/立川 義大…… (30)

令和4年度新役員、専門委員会の委員決まる…… (32)

私のプロフィル/岩瀬 裕紀…… (34)

シリーズ●わが社「自慢の逸品」――第32回

魚粉不使用のマダイ用飼料「鯛α-ZERO」のご紹介/中部飼料(株)水産部 (36)

シリーズ●各地の食生活──第10回

モンタナ州でも定番料理はハンバーガー/堀木 孝司…… (40)

- ●わが社飼料関連部署の新人紹介
- 三菱商事㈱,三井物産㈱,双日㈱,丸紅㈱,豊田通商㈱,兼松㈱……(48)

シリーズ●各商社の担当者紹介⑦ 三菱商事株式会社

弊社自慢の食糧本部穀物飼料部社員のご紹介/鳥井慎太郎…… (57) <オンライン座談会>

米国産トウモロコシの需給とシカゴ相場動向…… (64)

出席者:安瀬 明良,高橋 千明,大垣 和平,竹内宏一郎,加藤 淳,長谷川朝飛,藤原 玄,〔司会〕岡田 圭介

New Balance<10>

典型的な春高型になった今年のトウモロコシ相場/岩崎 正典…… (93)

秋季為替セミナー開催のお知らせ…… (109)

編集後記…… (110)

飼料輸出入協議会主催 海運セミナー <会場開催&WEB同時配信>

ドライバルク船マーケット動向と ロシアのウクライナ侵攻の影響



<講師>

商船三井ドライバルク(株) 代表取締役副社長執行役員

中島 正歲氏

●日時 令和4年6月8日 ●場所 新橋ビジネスフォーラム

只今ご紹介にあずかりました、商船三井ドライバルクの中島です。商船三井ドライバルクは、昨年4月に発足しました。名前の通り、商船三井の不定期船部門、鉄鋼原料・国内電力を除くPanamax事業、木材チップ部門、もともと子会社だった商船三井近海の4部門を合体させ誕生いたしました。船型的には1万トンから、10万トン級まで含めて幅広い船型をカバーしております。

私自身は、1982年に山下新日本汽船に入社しまして、その後、商船三井と 合併して現在に至ります。

今日は、「ドライバルク船のマーケット動向とロシアのウクライナ侵攻の影響」がテーマですが、姫野さんのご紹介に、「フレート(Freight、運賃のこと)」という言葉が多く出てきました。フレートは、傭船料と燃料代を合わせたものですが、本日私が説明するのは、傭船料、即ち海運マーケットについてです。運賃の変動は燃料代の影響も大きく、海運マーケットだけでは説明できないことはご承知の通りです。このことを念頭に置いて聞いていただければと思います。



セミナー会場風景

本日は主に6項目に関して説明いたします。「1 はじめに」では、本日のプレゼンをご理解いただくために、船型について簡単に触れます。「2 過去市況の振り返り」では、過去20年間と直近数年の海運市況を振り返ることで、足元市況の歴史的な立ち位置について、説明いたします。

「3 海上荷動量とドライバルクマーケット」と「4 船腹供給量とドライバルクマーケット」では、海上荷動量と船腹供給量から需給の説明をいたします。

「5 ウクライナ戦争のドライバルクマーケットへの影響」では、足元重大な事象となっている、ロシアのウクライナ侵攻がドライバルクのマーケットに与えた影響を考えます。

最後の「6 今後の環境対応」は環境問題を取り上げます。海運業界にも IMO作成の脱炭素に関するロードマップがあり、CO2を2030年までに40%、2050年までには50%削減するという目標があります。そのために来年から具体的な規制が導入される見込みですが、これがマーケットにどう影響するかを説明いたします。

1 はじめに

まず、資料1 (編注:スライド、以下同)をご覧ください。論理的に起承

資料 1 今日の結論 短期的/中長期的に市況は堅調に推移

	短期	中長期	
船腹供給	✓ コロナ規制による船腹稼働低下✓ コンテナ物流混乱に起因するドライバルク船需要増✓ 検疫緩和による稼働回復	✓ 限定的な新造船発注✓ 環境規制による船腹稼働低下	
貨物需要		✓ 人口増加と経済成長に伴う堅調な貨物需要(含む復興需要)	

転結があればいいのですが、特に足元では説明が難しいことも多く、今後のマーケット動向を予想するのは難しいのですが、表には弊社なりに考えた現時点での予想を記しました。

結論から申し上げますと、市況は短期的にも中長期的にも堅調に推移すると考えます。「堅調」の意味は、大きく上昇しないが底堅く大崩れしないという意味です。

この表は短期、中長期、船腹供給、貨物需要と4つの切り口で、マーケットの変動要素を分類しています。短期は1年程度の期間をイメージしています。「コロナの規制による船腹稼働の低下」は、例えば揚子江のパイロット乗船制限などによる滞船です。通常は到着すればすぐにパイロットが乗船しますが、コロナ禍中に一度乗船すると次の乗船まで強制的に間隔を空ける規制が設定され、パイロットの稼働が減少し船が長期滞船する事態が発生しました。船の稼働が落ちて、従来なら1隻で年間8~10航海履行するところ、5~6航海しか履行できず供給減の要因となりました。

同じ理由でコンテナ運賃も急騰しました。アメリカの港に着いても港湾労働者が集まらず荷役が滞り、船の稼働が下がり、結果としてコンテナのスペースショートを招き、運賃が急騰しました。これは「コンテナ物流混乱に起因するドライバルク船需要増」につながりますが、従来コンテナで輸送されていた鋼材はコンテナ船スペース不足のため、相対的にスペースがあり運賃

も安いバルク船での輸送需要が発生しました。統計的に把握するのが困難ですが、HandysizeやSupramaxなど小型バルク船にコンテナから流れた鋼材貨物が積まれ、バルク船の供給を圧迫。マーケットの上昇圧力になりました。

「検疫緩和による稼働回復」は「コロナの規制による船腹稼働の低下」とは 逆のことですが、マーケットの変動要素として記載しました。パイロットが スムーズに乗船し、ステベも集まり荷役が滞りなく進めば、船の稼働率も上 がり傭船料も下がります。上海のロックダウンは6月1日に解除されました が、その後、人々が動き出し港湾労働者も復帰して、船腹稼働が回復してお ります。その一方で、感染者が大量に出てくると、またロックダウンする可 能性もあり、現時点では上昇・下落どちらに転ぶか分からないため、変動要 素として両方記載しました。

「限定的な新造船発注」に関しては、IMO作成ロードマップの目標達成には、既存のC重油炊きエンジンでは困難と見られ、各船社は新燃料の研究をしています。C重油以外で隻数的に多く稼働しているのはLNG燃料船ですが、LNGはハンドリングが難しく、船員に対する特別な教育も必要です。LNG対応のエンジンやタンクを装備した船は船価が高くなります。また、新燃料の議論に決着が見えない中、LNGより安価で扱いやすい新燃料が出てくれば陳腐化するリスクもあります。こうした背景から、船主やオペレーターは新造船発注に踏み切らず、中長期的に見て船腹供給はあまり増えないと考えております。

「環境規制による船腹稼働低下」は、来年1月から発効するIMOの燃費規制に関するものです。この規制により燃費が悪い船は、強制的に出力を制限され航行速度が落ちます。同じ距離を走る日数が増加し船腹の稼働が下がり供給が減ることで、マーケットに対しては上昇圧力になります。

貨物需要は、短期では空白にしましたが、弊社内ではウクライナ問題に絡み代替輸送需要を入れるべきか議論がありました。従来ウクライナから輸出されていた小麦やトウモロコシが輸出できなくなり、中東やアフリカなど従来ウクライナから穀物を輸入していた国々は調達ソースの変更を迫られます。その結果、代替調達先がより遠方であれば、輸送距離が伸びて船腹供給が減

- 6 -

少し、マーケットの上昇圧力となります。しかし、代替輸送には様々なパターンが考えられます。例えば、足元中国は極東ロシアからの石炭輸入を増やしていますが、ロシアはインドネシアよりも距離が短くなる分、船腹稼働が上がりマーケットの下落要素になります。このように代替貨物輸送は評価が単純ではなく一概にマーケット上昇要因とは言い切れません。またあくまで代替に過ぎず、貨物の全体量が増えるわけではありません。故に変動要素として考えるのは不適当かと考え記載しませんでした。

「人口増加と経済成長に伴う堅調な貨物需要(含む復興需要)」ですが、短期的には今後戦争によって破壊された町の復航需要が見込まれ、長期的には人口増加に伴う経済成長によって貨物需要も堅調に推移することが見込まれます。

このように、全体としてはポジティブな要素が多いため、本日の結論は「堅調に推移」としています。

今回のプレゼンには船型がよく出てくるので、船型について若干説明します(資料2参照)。

一番大きい船型がCapesizeです。最大は40万トンクラスまであります。荷物は鉄鋼産業用の鉄鉱石と石炭で、大西洋と太平洋を行き来しますが、その際喜望峰を経由して航行するため、Capesizeと名付けられています。

Panamax は7万~9万9,000トンです。名前のとおり、パナマ運河を通る最大の船型であったことが名前の由来ですが、パナマ運河も拡張され、現在はより大きいサイズでも運河を通れますが、今でもPanamaxと呼ばれています。石炭や穀物の輸送に使用されます。

次は、小型は2種類、SupramaxとHandysizeです。Supramaxは、4万~6万9,999トンまでで、LOAもPanamaxよりは短いです。特徴としてクレーンがついています。陸上側に設備がない港でも本船クレーンで荷役可能で、多彩な貨物を運んでいます。Handysizeは、Supramaxより更に小さく、小規模な港湾への配船や貨物ロットが少ない場合に使用されます。

また、ロンドンのバルチック海運取引所によってインデックスが公表され

資料 2

船型 (1)



DWT	100,000DWT 以上 最大は40万t級。18万t~20万tが主流。
LOA	230m~300m程
Beam	43m~
特徴	鉄鋼産業向けの鉄鉱石・石炭を輸送。 大西洋〜太平洋間をアフリカ喜望峰(Cape of Good Hope)経由で航行することに由来。



Panamax			
DWT	70,000~99,999DWT		
LOA	225m~240m程		
Beam	32m~40m程		
特徴	バナマ連河を通航できる最大船型であったことが名前の由来。主に石炭・穀物を輸送。		

船型 (2)



Supra	upramax			
DWT	40,000~69,999DWT			
LOA	180~200m			
Beam	~32m			
特徴	荷役用クレーンを装備し設備のない港湾での荷役が 可能。多種多様な貨物を輸送。			



Handysize			
DWT	10,000~39,999DWT		
LOA	100~190m		
Beam	~32m		
特徴	Supramax同様、荷役用クレーンを装備。		

ています。船型ごとに基準船型が設定され、更に基準船型ごとに設定された 基準航路の傭船料を日々公表しています。各船型の傭船料平均をさらに加重 平均し指数化したものをバルチック海運指数、BDIと言います。『日経新聞』 でもよく使用されており、本日もBDIの上下で市況を説明することがあるのでご記憶ください。

資料3のグラフは、各船型の主要貨物と仕向地をトンマイルで示したものです。トンマイルとは、運んだ数量に距離を乗じたもので、時間の概念を含めた輸送の総量を示しています。船型ごとに特徴があり、Capesize は鉄鉱石が75%以上を占めております。Panamax は石炭とGrainで76%、Supramax、Handysizeでは三大貨物の割合は下がり、「その他」の比率が上がります。「その他」とは、鋼材、セメントやニッケル・銅精鉱・ボーキサイトなどの非鉄原料などで、マイナーバルクと呼ばれています。重要度がマイナーという意味ではなく、物量が三大貨物より少なく、小規模な港湾での積揚げに向かう場合が多いため、ギア付のSupramaxやHandysizeが使われます。全体の仕向地では、中国が61%と圧倒的な存在感です。海運市況は中国次第とよく言われますが、このグラフがそれを端的に示しております。異なる船型でも同じ貨物を運ぶことがあり、各船型市況も全体としては連れ高・連れ安するケースが多いですが、荷物が鉄鉱石と石炭しかないCapesize は他の船型と関係

輸送貨物内訳 仕向地 その他,5% 17% S Korea Grain 65% 76% 37% 8% Iron Ore Japan 11% 17% 20% 4%

資料3 輸送貨物内訳と仕向地(2021年トンマイル)

Panamax Supramax

Cape

出典: AXS Dry (2021年データ)から弊社が作成

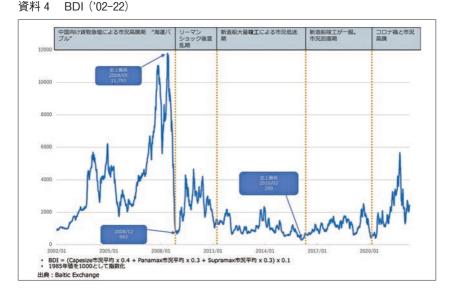
Handy

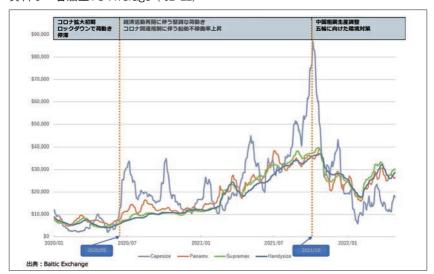
なく上下することもあります。

2 過去市況の振り返り

資料4は、先ほど触れました、BDIのグラフです。BDIは、1985年を1,000として各船型市況平均を指数化したものです。リーマンショック前の2008年5月に史上最高11,793を付けました。この時期、中国は爆発的な経済発展の元で新設高炉が数多く稼働を開始。自国の消費の伸びを自国産の鉄製品で賄う時代に入り粗鋼生産量が飛躍的に伸びました。中国への鉄鉱石や石炭といった原料輸送需要により海運マーケットは飛躍的に上昇しました。ところが、2008年9月のリーマンショック直前に下落が始まり、リーマンショックを経て2008年12月に663まで下落しました。リーマンショック後、反動で若干回復したものの、その後、長らく低迷を続けて、2020年の春から漸く上昇したというイメージです。

資料5は,直近3年間の市況平均グラフです。2020年以降,最初の5カ月間はコロナ禍の影響で荷動きが落ち市況も低調でしたが,中国がいち早く経





資料 5 各船型TC Average ('02-22)

済活動を再開し輸入量を大きく増やしました。一方,コロナ関連の規制により各国の港湾機能は低下し、船の稼働率は大幅に低下しました。貨物需要が伸びても、船の供給が足りずマーケットは上昇し、2021年10月にピークを迎えました。

一方で中国は2021年中ごろから環境対策を開始したことや,2022年2月開催の冬季オリンピックに向けて所謂「青い空」を実現する必要性から粗鋼生産制限を開始。2021年10月よりマーケットが下落に転じました。グラフの通り,Capesizeが一気に冷え込み,その他船型も10月以降下落に転じております。Capesizeは鉄鉱石と石炭に偏っていますので,ボラティリティが激しく上下動を繰り返しておりますが,他船型は下落に転じたものの,下落幅は小さく底堅く推移しております。

3 海上荷動量とドライバルクマーケット

資料6は、船種別海上荷動量とドライバルク船輸送量の内訳です。タンカーやコンテナを含めた海上荷動量全体は122億トン。ドライバルク船のシェア



資料 6 海上荷動量とドライバルク貨物量

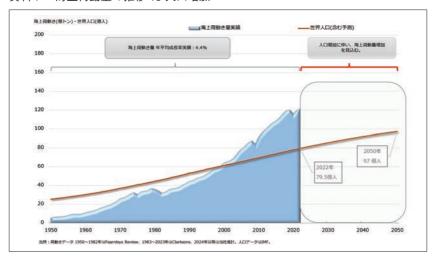
は44%で約54億トンです。内訳は鉄鉱石と石炭でほぼ半分,大豆を含めた穀物のシェアは9%,その他マイナーバルクが39%です。

資料7では海上荷動量の推移と人口増加の関係をグラフにしました。2022年現在,地球人口は79.5億人,2050年予測は97億人です。これまで人口増加と共に海上荷動量も増加してきました。今後も増加が予想される人口の生活を支えるため,必要となる物資は増加するでしょうし,それに伴い海上荷動量も増加すると考えております。

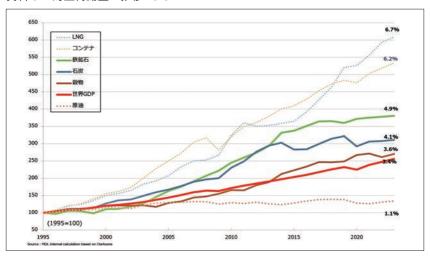
資料8は、海上荷動量とGDPの比較です。1995年を100として指数化しております。1995年から世界GDP平均成長率が3.4%に対して、鉄鉱石4.9%、石炭4.1%、穀物3.6%と、貨物もGDPと同程度に増加しております。

資料9は、世界と中国の粗鋼生産推移のグラフです。ドライバルク荷動量の半分は鉄鋼石と石炭です。このグラフから中国の粗鋼生産が世界の半分を占めており、中国の粗鋼生産量の増減が海上荷動量全体に大きく影響を与えることが分かります。中国の粗鋼生産は2000年代以降、順調に伸びてきましたが、2021に減少に転じました。これは先ほど説明した通り中国政府が環境問題への取り組みを強めたことや、北京冬季オリンピックを意識し、各鉄ミ

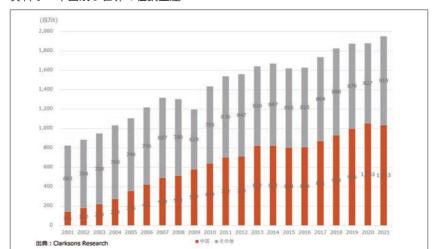
資料7 海上荷動量の推移 vs 人口増加



資料 8 海上荷動量の推移 vs GDP



ルに粗鋼生産を減らすよう指導したためです。今後も中国政府が環境問題への取り組みを強めるのであれば、今まで一本調子で上ってきた粗鋼生産量も横這いか、下落する可能性があります。昨今では電炉も増えており、中国へのスクラップ輸送需要が伸びるかもしれません。そうなればCapesizeによる



資料 9 中国及び世界の粗鋼生産

鉄鉱石輸送は徐々に減少し、スクラップを運ぶ小型船の需要が伸びる可能性 があります。

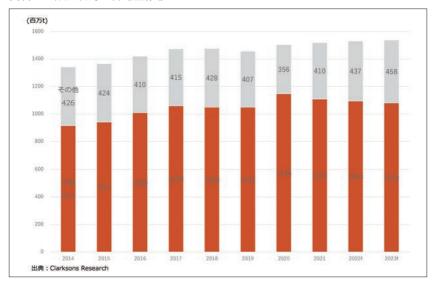
資料10は、鉄鉱石の海上荷動量推移です。中国の存在の大きさが分かると 思います。

資料11は、Capesize市況と鉄鉱石海上荷動量のグラフです。両者が連動していることがわかります。季節ごとに荷動量と市況が落ち込むのは、旧正月に合わせて需要が減少するからです。2021年は市況グラフが急激に上昇しデカップリングしております。原因は後ほど説明いたしますが、船腹稼働が低下したためです。

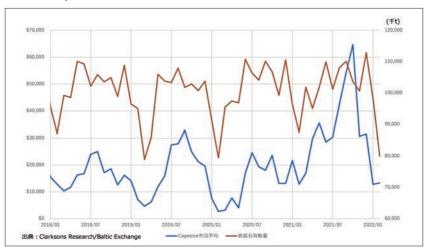
資料12は、Panamax貨物の太宗を占める石炭の海上荷動量です。これまでは順調に増加していましたが、2020年にコロナ禍と脱炭素対応の動きが同時に広がったことで大きく減少しました。2021年はコロナ禍からの経済復興と東南アジア等からの旺盛な火力発電需要により再びリバウンドしましたが、脱炭素への取り組みが広がる中、2019年の荷動量には戻らず今後も微増か横ばいで推移すると見られます。

資料13は、穀物の海上荷動量です。皆様よくご存じのこととは思いますが、

資料10 鉄鉱石海上荷動量推移

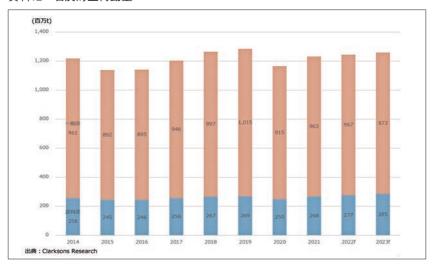


資料11 Capesize市況と鉄鉱石海上荷動量 (ブラジル&豪州)

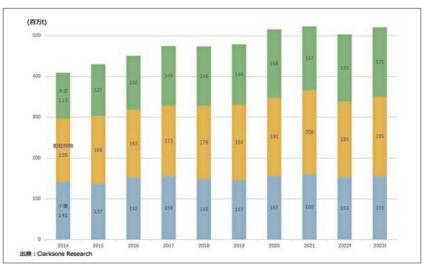


人口増加や経済発展に伴う食生活レベルの向上により、順調に荷動量を増や しております。2022年予測はロシアのウクライナ侵攻により減少する見込み ですが、戦争が終わりウクライナから荷動が戻ると再び増加すると考えてお

資料12 石炭海上荷動量

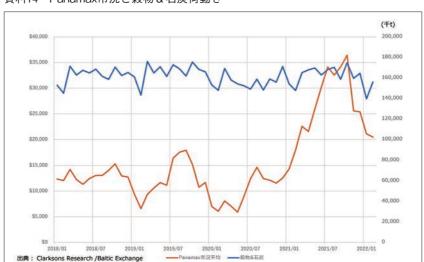


資料13 穀物海上荷動量



ります。

資料14は、穀物と石炭の荷動量合算と、Panamax 市況をグラフにしました。 鉄鉱石と Capesize 市況ほどではありませんが、緩やかに連動しております。

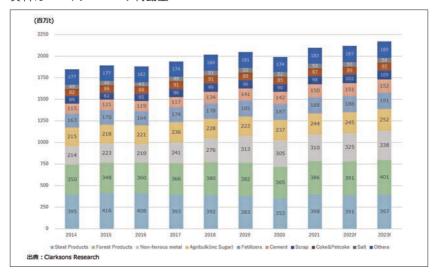


資料14 Panamax市況と穀物&石炭荷動き

Capesize 同様,2021年の早い時期から市況が上がり、南米大豆シーズン後も上昇を続け、荷動量とデカップリングしました。輸送量が変化しないにも関わらずマーケットが上昇し続けた理由は、船腹稼働率の低下によるものです。コロナの影響で中国や世界各国の港湾稼働が低下、入港規制やパイロット乗船規制による滞船、クルー交代のための離路による稼働率低下が要因でした。足元ではwithコロナの考えが浸透し港湾の規制緩和が進んだことで、滞船も減り船腹供給が増加。マーケットは落ち着きを取り戻しております。

資料15は、マイナーバルクの荷動量グラフです。マイナーバルクとは三大貨物以外の、鋼材、木材製品、非鉄金属、農産物、セメント、スクラップなど多種多様な貨物の総称で、輸送量は大きく増加しております。木材製品には、木質ペレットのように新しい燃料も含まれます。非鉄金属の中には銅鉱石やニッケルが含まれます。電気自動車に代表される電化の進展により、非鉄金属需要は今後も高まると考えており、木質ペレットなど新燃料需要の増加と合わせて、マイナーバルク荷動量全体も順調に増加すると予測しております。

資料15 マイナーバルク荷動量



4 船腹供給量とドライバルクマーケット

資料16以降は船腹供給に関するトピックです。現在,世界のバルカー隻数は1万2,721隻,DWTベースで9.5億トンです。ドライバルク貨物荷動総量が54億トンですので,載貨重量合計9.5億トンで54億トンを輸送していますことになります。単純に54億トンを9億5,000万トンで割ると,各船が年間6航海程度履行していることになります。

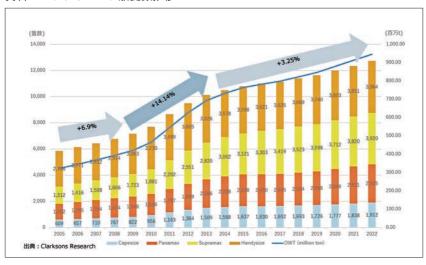
資料17は、世界のドライバルク船隻数推移のグラフです。2005年から2008年までDWTベースの伸び率は6.9%でしたが、2009年以降2013年までは14.14%と急増。その後は3.25%の伸びで現在に至っております。2008年までは中国の粗鋼生産増加に伴う荷動量増加で海運業界の景気がよく、この時期に各船主・オペレーターが新造船を大量発注しました。船は発注から竣工まで3年~5年かかります。2009年以降、リーマンショック前に発注した新造船が続々と竣工したことで船腹供給が急増しました。その結果、海運市況は下落しているのに船は竣工を続ける負の循環が発生しました。

— 18 —

資料16 船型別船腹量(2022年5月現在の船腹量)



資料17 ドライバルク船隻数推移

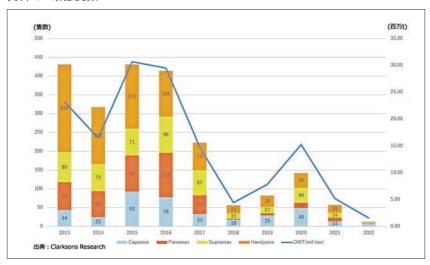


資料18は、各船型の新造船竣工隻数推移のグラフです。2009年から2013年にかけてピークを迎えた後、足元も竣工隻数が低調であることが分かります。 資料19は、スクラップ隻数の推移です。船舶は最後にはスクラップされてマーケットから退場しますが、グラフの通りスクラップ隻数は減少しております。理由はマーケットが好調な中で、オーナーが老齢船を長く活用するた

資料18 新造船竣工隻数推移



資料19 解撤隻数



めです。さらにマーケットが高くなると、新造船発注となりますが、次世代 燃料がLNGなのかアンモニアか水素かはっきりしない状況下、発注に躊躇す る船主・オペレーターがほとんどです。 資料20は,既存船の船齢構成です。オレンジでハイライトしておりますが10歳以上の船が多くを占めております。船齢10~14歳の船というのは,リーマンショック前に大量に発注した船の一群ですが,今後5年以内に15歳になります。先ほど説明した通り,通常であればスクラップが進み古い船は退場しますが,次世代燃料議論の推移が不透明な中,スクラップも進んでいません。資料21は,これまで説明してきました新造船発注が限定的な理由です。ここ1~2年で鋼材価格が急騰し新造船価格が急上昇したことで投資を控えるオーナーもいます。

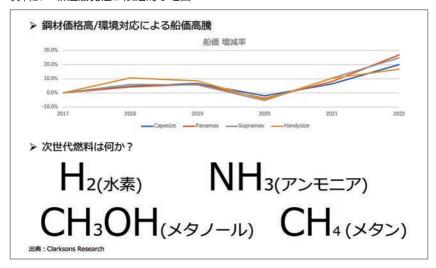
下段は次世代燃料の候補です。H2は水素,NH3はアンモニア,CH3OHはメタノール,CH4はメタンでLNGの主成分です。足元でインフラが整っているのはLNGだけです。油送船でメタノールを使う船も一部ありますが極僅かです。その他はエンジンすら開発されておりません。

船腹が増えない理由として環境問題があります。EEXI規制は既存船に対してGHG排出量を段階的に削減するため燃費効率を上げていく事を要求する制度で、結果としてエンジン出力が制限され運航スピードが落ち船腹供給減

資料20 船齢構成



資料21 新造船発注が限定的な理由



少につながります。燃費実績格付け制度もAからEまでの5段階評価で、燃費の悪い船はEまたは3年連続Dになると、主管庁の確認が必要になり、燃費効率の劣る老齢船の退場圧力になる可能性があります。

資料22は、これまで説明してきた内容を上昇要素、下落要素に仕分けしたものがこの表です。全体的に上昇要素の圧力が強く、今後も市況は堅調に推移するものと考えております。一点、私どもが皆様にうかがいたいことは「大豆を主原料とした代替肉の普及、飼料輸送需要減」が今後起こるのか、ということです。穀物荷動量に大きな影響を及ぼすと思いますが、知見のある方がいればご教示ください。

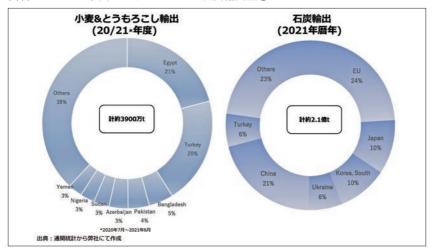
5 ウクライナ戦争のドライバルクマーケットへの影響

ここからはロシアのウクライナ侵攻による影響を海上荷動量とマーケットの反応から説明いたします。ロシアがウクライナに侵攻してから100日程度しか経っておらず、統計上の数字がありませんが、不明な部分はAIS情報などを使い資料を作成しました。資料23は、戦争開始前のロシアの輸出状況を示

資料22 マクロ視点からの市況見通し

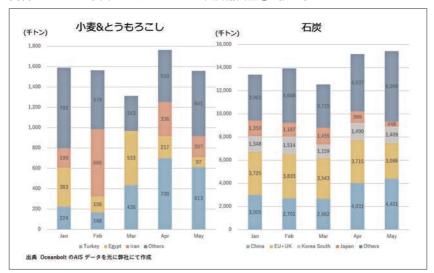
	項目	上昇要素		下落要素	
		短期的	中長期的	短期的	中長期的
船腹供給	港湾	各国コロナ影響による港湾の 混乱港湾不稼働や規制継続		ワクチン接種普及及び"with コロナ政策"による混乱収束 港湾稼働が正常化し滞船が緩 和	
	減速航海		EEXI・CII(2023年1月〜)発効 に伴う減速航海		
	竣工·解撤		鋼材高/環境対応のため船価高 騰 次世代燃料議論の結論がでず、 投資控え	好調なマーケットを受けて、 老齢船の解撤引き延ばし	
貨物需要	鉄鋼石·石炭	石炭需要は、2025年までは 増加見込み	石炭からの代替貨物輸送需要 増(DRI/スクラップ/バイオマ ス燃料など)		脱炭素社会実現に向けた石炭素 要減退 中国に於ける新規原発の稼働、 石炭火力減、中国国内炭生産量 の伸長
	穀物		人口増・食物多様化に伴う食 糧需要増		大豆を主原料とした代替肉の普及による飼料需要減。代替肉の 一貫生産体制構築により大豆輸送需要減
	マイナーバルク		米国の5年総額1兆ドル(約 110兆円)の新規インフラ整備 計画 毎期材・セメント等の 建設需要増加 電化の進展に伴う非鉄原料需 要増(アルミ・銅・ニッケルな ど)	中国の環境負荷低減を狙った 鉄鋼製品生産抑制	

資料23 ロシア小麦&とうもろこし・石炭輸出量①



しました。2020年7月~2021年6月までの小麦・とうもろこしの輸出量は合わせて3,900万トン、2021年歴年の石炭輸出2.1億トンでした。

資料24に2022年暦年のロシアの海上輸出量推計を示しました。これは通関



資料24 ロシア小麦&とうもろこし・石炭輸出量②(直近)

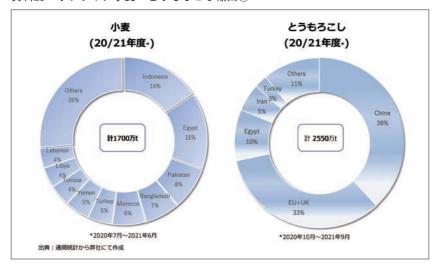
統計ではなく、AIS(自動船舶識別装置)データを解析したもので通関統計ほど正確ではありませんが、参考になります。穀物と石炭は戦争開始後も以前と変わりなく輸出が続けられています。また戦争によって仕向地が変わることなく輸出されております。特に石炭は中国やEU諸国が安定的に輸入しています。EUは対ロシア制裁のため8月からロシア炭の禁輸を実施する見込みですが、それまでは輸入を継続するものと見込んでおります。

資料25は、ウクライナの輸出通関統計です。ロシアと異なり石炭輸出は少ないので省きました。小麦で1,700万トン、トウモロコシで2,550万トン輸出されております。

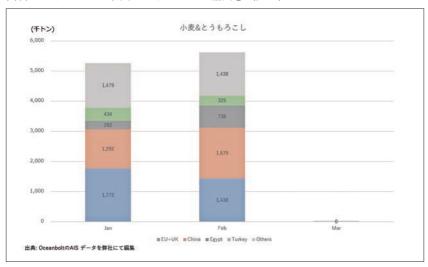
資料26に2022年の輸出推計を示しました。こちらも AISから推計したものですが、3月以降ほぼゼロです。ロシア軍によって港湾が封鎖されているので輸出はストップしています。ウクライナとロシアがよくセットで議論されますが、現状輸出がストップしているのはウクライナだけで、ロシアは輸出を継続していることが分かります。

資料27は、ロシアのウクライナ侵攻前後の各船型市況平均のグラフです。ロ

資料25 ウクライナ小麦・とうもろこし輸出①



資料26 ウクライナ小麦・とうもろこし輸出②(直近)

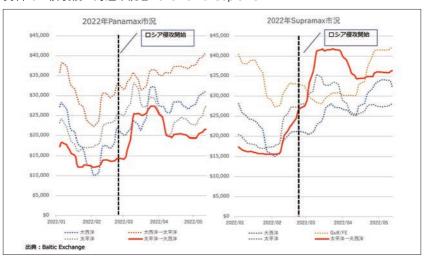


シア軍が侵攻を開始した2月24日以降も特に大きな変化はありませんでした。 Capesize は特有の動きを示していますが、その他の船型は2月24日以降もそれ以前の動きを継承し上昇を続けました。これは南米大豆の出荷タイミング

資料27 侵攻後の海運市況①全体



資料28 侵攻後の海運市況②Panamax & Supramax



と重なることから季節要因による上昇と考えております。

資料28は、Panamax と Supramax の市況平均を構成する各航路のグラフです。太平洋域内、大西洋域内、両水域間のクロストレード(太平洋→大西洋、

大西洋→太平洋)を表示しております。グラフ上赤実線で示しておりますが、2月24日以降、太平洋から大西洋に向かう航路が急上昇していることが分かります。これは戦争開始以降、オーナーが先行き不透明な大西洋への航海、所調バックホール(B/H)を嫌い、プレミアムを要求したためです。同時期に太平洋から大西洋へ向かう鋼材の荷動きが増加したことも、B/H市況上昇圧力となりました。2月24日以降、市況の反応が見られたのはB/Hだけで、それ以外に関しては特に大きな影響は見られませんでした。

資料29は、これまで説明したロシア侵攻後の市況への影響を纏めたものです。

資料30は、今後の代替輸送に関する弊社予想です。石炭は8月以降ロシア 炭を輸入できないEU諸国がアメリカ炭やコロンビア炭に調達先を変更する 可能性があり輸送距離が伸びることでマーケットの上昇要因になります。日 本や韓国など極東諸国は豪州やインドネシアが代替ソース候補となります。一 方で日本はセメント産業をはじめとした一般産業の需要家も多く、そうした 需要家は港湾の規模が小さく、物理的にPanamaxのような大きい船を使えな いことや、品位の違いから単純に他産地ソースに代替できないといった問題 を抱えています。またソース切り替えによるコスト増に耐えられない工場で は、稼働低下や場合によっては操業停止を検討しており、需要そのものが消

◆現状、市況への影響は限定的

資料29 ロシア侵攻海運市況への影響

> 貨物

- ✓ ウクライナの輸出はストップ
- ✓ ロシアは輸出を継続
- ✓ 代替輸送需要は足元は限定的

▶ 市況

- ✓ 全体的に戦争前の動きを踏襲
- ✓ BHだけ急上昇し高位安定

資料30 代替輸送の今後

▶ 石炭

- ✓ EU制裁が実施されると見られる8月以降に トレードが変化する可能性。
- 欧州勢は米国炭・コロンビア炭など大西洋 から調達するのが現実的。極東の国々は豪 州やインドネシアからの調達が増加見込み。
- ✓ 一方、中国はロシア炭を順調に輸入しており、その分インドネシアからの輸入を減らす可能性。

▶ 穀物

- ✓ トレードの流れに大きな変化は見られない。
- ✓ ロシアの出荷が続くなか、ウクライナの早期輸出回復は困難。今後、小麦やとうもろこしの代替輸入が進む可能性。
- ✓ 太平洋・インド洋の需要国は同じ水域から の代替を検討する可能性。

滅する可能性もあります。

一方、中国は制裁には加担せず安価なロシア炭の輸入を増やしています。自 国でも石炭を生産できるため、逆にロシアより遠方のインドネシアからの輸 入が減る可能性もあります。これはトンマイル減につながり、マーケットの 下落要因となり得ます。

穀物に関しては、ウクライナからの出荷が止まっている分、全体の物量は減っていますが、それを補うための代替輸送需要の動きは限定的で、今のところトレードパターンに大きな変化は見られません。太平洋・インド洋の穀物輸入国に関しては、同じ太平洋域内の豪州やインドからの調達を増やすと考えられますが、インドは小麦の輸出を停止しましたし、域内で賄いきれるかは不透明で、遠距離ソースに切り替われば、マーケットの上昇圧力となります。

資料31は、前掲資料22(23ページ)の表に戦争の影響を赤字で付け加えたものです。船腹供給に「原油高による減速航海」とあります。戦争により燃料油価格が急上昇したため、減速し燃料消費を減らすことで採算改善を図る動きが広がっています。これにより船の稼働が低下、供給減少につながるため、マーケットの上昇要因となります。その他の要因も短期・中長期の仕分けが難しい項目もありますが、弊社の考えに基づき分類いたしました。

資料31 ウクライナ問題を踏まえた市況見通し

項目		上昇要素		下落要素	
		短期的	中長期的	短期的	中長期的
船腹供給	港湾	各国コロナ影響による港湾の混 乱、港湾不稼働や規制継続(供 給減) > 黒海沿岸で船が滞留。		ワクチン接種普及及び"with コロナ政策"による混乱収束港湾稼働が正常化し滞船が緩和	
	減速航海	▶ 原油高による減速航海普及	EEXI・CII(2023年1月〜)発効 に伴う減速航海		
	竣工・解撤		鋼材高/環境対応のため船値高 騰 次世代燃料議論の結論がでず、 投資控え	好調なマーケットを受けて老齢 船の解撤引き延ばし	
貨物需要	鉄鋼石·石炭	石炭需要は、2025年までは増加見込み 2 復興需要による銅材需要増	石炭からの代替貨物輸送需要増 (DRI/スクラップなど)	▶ ロシア炭輪入制限で、工場稼働低下or停止	脱炭素社会実現に向けた石炭 需要減退 中国に於ける新規原発の稼働 石炭火力減、中国国内炭生産 量の伸長
	穀物		人口増・食物多様化に伴う食糧 需要増		大豆を主原料とした代替内の 普及による飼料需要減 代替肉の一貫生産体制構築に より大豆輸送需要減
	マイナーバルク		米国の5年総額1兆ドル(約 110兆円)の新規インフラ整備 計画 →鋼材・セメント等の建 設需要増加 サルミ・銅・ ニッケルなど)	中国の環境負荷低減を狙った鉄 鋼製品生産抑制 ・復興需要による鋼材・セメントの需要 ・黒海向けB/Hトレードが活発 化し、これまでの市況構造を 変化させる可能性	

市況変動要素は多くありますが、総じて上昇要因の方がインパクト大きい と考えており、今後も市況は堅調に推移する、というのが本日の結論となり ます。

時間が来ましたので、環境対応に関しては省略いたします。私からは以上です。

編注:文中資料は、全て商船三井ドライバルク㈱生活資材チーム提供。©2022 MOL Drybulk Ltd.です。

[※]質疑応答は誌面の都合により割愛させていただきました。

理事長新任あいさつ



飼料輸出入協議会 理事長 立川 義大 (伊藤忠商事(株)食糧部門長代行/兼飼料・穀物部長)

この度,飼料輸出入協議会理事長を拝命いたしました,伊藤忠商 事株式会社の立川義大でございます。甚だ微力ではございますが,飼料・畜産・水産業界並びに当協議会の発展に向け,会員の皆様と一丸となって尽力させていただく所存です。

今日,新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えてきており、徐々に日常を取り戻しつつありますが、中国上海でのロックダウンの長期化による物流混乱や経済活動の停滞など依然として不安定な状況が続いています。また、世界を震撼させた2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、世界のエネルギー、穀物価格は史上最高値圏で推移し、世界経済に大きな負の影響をもたらしただけでなく、各国のエネルギー・食糧安全保障の外部依存の大きさという点を改めて認識させられました。

国内に目を向けますと、穀物価格の高騰の影響を大きく受け、飼料・畜産・水産業界は未曽有の困難に直面しています。また、鳥インフルエンザや豚熱などの様々な疾病リスクの増大やコロナによる消費行動の変化への対応等多くの課題が山積しています。このような厳しい状況下ではございますが、業界並びに会員各社皆様のご協

力を賜りながら、これまで以上に業界一丸となってこの難局を乗り切り、業界の更なる発展に向けて邁進してまいる所存でございますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

<プロフィール>

1993年4月 伊藤忠商事株式会社入社 化学品第一経理チーム配属

1994年4月 同社 機能化学品部 食品化学品課

1998年3月 同社 退社

1998年4月 APC Inc. 入社 エーピーシージャパン株式会社 代表取締役社長

2003年1月 同社 退社

2003年2月 伊藤忠商事株式会社入社 飼料原料第二課配属

2004年4月 同社 食料先端ビジネス戦略室

2007年4月 同社 飼料原料第二課 課長代行

2008年4月 日本ニュートリション株式会社 代表取締役社長

2013年4月 伊藤忠商事株式会社 飼料・穀物・油糧部 部長代行

2018年4月 日本ニュートリション株式会社 代表取締役社長

2020年 4 月 伊藤忠商事株式会社 飼料·穀物部長

2022年4月 同社 食糧部門長代行 (兼) 飼料・穀物部長

令和4年度新役員、専門委員会の委員決まる

飼料輸出入協議会では、さる6月3日、令和4年通常総会を飼料輸出入協議会会議室にて開催し、提出議案は全て承認され、引き続き開かれた理事会において新役員並びに専門委員会の委員長、委員が以下の通り選出された。 理事長には、立川義大伊藤忠商事㈱飼料・穀物部長が選出された。

7月1日現在の役員は以下の通り。(社名アルファベット順)

役 員

理事長 立川 義大 (伊藤忠商事株) 飼料・穀物部長)

副理事長 永田 義典 (三菱商事㈱ 穀物飼料部長)

副理事長 佐野 豊 (三井物産㈱ 食糧事業部長)

副理事長 萬田 義人 (豊田通商㈱ 穀物事業部長)

副理事長 白木 友宏 (丸紅㈱ 穀物油糧部長)

会計理事 須藤 拓也 (双日(株) 食料事業部長)

理 事 山口 秀三 (カーギルジャパン(同) 飼料穀物部長兼蛋白飼料部長)

監 事 岩瀬 裕紀 (兼松㈱ 穀物飼料部長)

専務理事 姫野 健二 (飼料輸出入協議会)

専門委員会

総務委員会

委員長 三菱商事(株)

委 員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)

三井物産㈱ 双日㈱ 豊田通商㈱

2. 主原料委員会

委員長 豊田通商(株)

副委員長 丸紅株

副委員長 三井物産(株)

委 員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 三菱商事(株) 双日(株)

3. 副原料委員会

委員長 三井物産(株)

委 員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)

三菱商事(株) 双日(株) 豊田通商(株)

分科会 分科会長

植物蛋白・糟糠類分科会 三井物産㈱

動物蛋白分科会 兼松㈱

粗飼料分科会 双日(株)

4. 編集委員会

委員長 丸紅㈱

委 員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株)

三菱商事(株) 三井物産(株) 双日(株) 豊田通商(株)

5. 安全性委員会

委員長 豊田通商(株) (主原料委員長)

三井物産(株)(副原料委員長)

委 員 カーギルジャパン(同) 伊藤忠商事(株) 兼松(株) 丸紅(株)

三菱商事(株) 双日(株)

私のプロフィル

岩瀬 裕紀

(兼松㈱穀物飼料部長)



本年4月1日より弊社の穀物飼料部長を拝命いたしました兼松株式会社の 岩瀬と申します。長く携わられる方の多いこの業界で、『お前誰だ?』とお思 いの方も多いかと思いますので、簡単に自己紹介をさせていただければと存 じます。

1997年4月に兼松に入社し、米麦を扱う課に配属されました。担当は小麦粉の輸出。主に香港に輸出しておりましたが、その内、小麦粉を使った食品の輸出・輸入も手掛けました。最終的にはフランスのパン屋の立ち上げもお手伝いしておりました。(PAULと言います。ご贔屓に。)

2009年5月に香港に駐在。その後,2011年6月から横移動で上海に駐在となりました。上海時代には2度ほど『Feed Trade』に寄稿させていただいております。

2012年1-2月号 <新春海外だより>『上海で赤ちゃんを産んでみました (嫁が)』

2014年3-4月号 <海外駐在員の食事情>『上海食事情』

ご興味があれば、バックナンバーを手に取っていただければ幸甚です。

上海時代に初めて飼料原料取引に携わらせていただきました。当時は中国が色々な飼料原料の輸入を開始し、急速に輸入量を拡大、『買い負け』という言葉が広まった時期です。中国の購買力を利用して自社の取扱量を拡大しないと、最終的には日本向けの量も確保できないし、買い負けてしまう…ということで、中国で牧草や魚粉を販売しておりました。

2017年10月帰国。以後、穀物飼料部でトウモロコシを取り扱わせていただ

いております。

今,業界は大変な時期にあることは皆さまご承知の通りです。コロナ禍,各種疾病,穀物高,資源高,ウクライナ侵攻,円安…,悪い材料なら枚挙にいとまがない状態です。このような時期に微力ではございますが,視点や切り口を少し変えて,業界に尽力させていただければと存じます。何卒,ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

<プロフィル>

1974年12月 千葉県生まれ

1993年3月 埼玉県立浦和高校卒業

1997年3月 一橋大学卒業

1997年4月 兼松株式会社 穀物油脂部第一課配属

2009年5月 兼松(香港)有限公司 出向

2011年6月 兼松 (中国) 有限公司 出向

2017年10月 穀物飼料部穀物課

2017年11月 穀物飼料部穀物課 (課長)

2022年4月 穀物飼料部(部長)

シリーズのか社「自慢の逸品」

魚粉不使用のマダイ用飼料 「鯛α-ZERO」のご紹介

中部飼料株式会社 水産部



1. はじめに

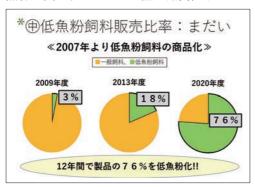
中部飼料株式会社は、1949年の創業以来『飼は食を司る』という使命感を持ち、配合飼料の総合メーカーとして歴史を重ねてきました。成長の源泉は『特性ある仕事をして社会に貢献する』という社是の理念のもと、飼料の可能性を信じ、お客様と共に課題を見つけ出し、解決することを愚直に進めてきたことにあります。

今回この場を借りて紹介させていただく、魚粉不使用のマダイ飼料「鯛 α -ZERO」についても、社会とお客様に貢献できる飼料になると考え、研究を重ねた結果、完成することができました。



2. 魚粉不使用のマダイ用飼料「鯛α-ZERO」の開発

従来、水産用飼料には魚粉が多く使われます。しかし、『魚から魚を育てるのではなく、植物性タンパクから魚を育てられないか』と考え、2007年より魚粉の使用比率を30%以下に抑え、魚粉を植物性タンパク等に置き換える等した低魚粉飼料を開発・販売してまいりました。当初、養殖業者の方からは、魚粉を減らすことによる魚の品質低下について不安の声もありましたが、従



来と遜色ない品質に魚を育て ることに成功することができ ました。

こうした実績を1つずつ積 み上げ、地道に説明し、また、 クチコミ等で広がった結果、 当社の低魚粉飼料は普及して まいりました。

そして、2017年に『低魚粉化の取組の究極の形』といえる魚粉不使用飼料の開発に着手します。既に実績のある低魚粉飼料の製造ノウハウをベースに、畜産飼料における当社独自の製造ノウハウを更に取り入れました。そして、魚粉を使わない完全植物性たんぱく源で製造した養殖マダイ向け飼料「鯛α-ZERO」の開発に成功し、2021年4月より販売を開始しました。



3. 美味しさの追求

従来と異なる魚粉不使用の飼料で育てた魚であっても、美味しくなければ 消費者の方には支持されません。そのため、当社のグループ会社でマダイを 養殖している豊洋水産でフィールド試験を繰り返し行ってまいりました。

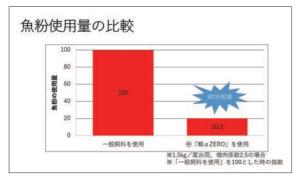
従来の飼料で育てた魚と「鯛 α -ZERO」で育てた魚の比較試験を行うと,見た目では大きな違いはないものの,「鯛 α -ZERO」で育てた魚は魚独特の臭みがなく,あっさりして美味しいとの評価をいただくことができました。若い人の魚離れの一因には魚の独特な匂いもあることが想定されるため,この結果は養殖魚を食べていただくキッカケになり得ると考えています。



4. SDGsの達成に貢献できる魚粉不使用飼料

魚粉は価格が高い原料になります。そのため魚粉を使わない=コスト削減 に繋がると考えられますが、魚粉不使用飼料はコストが比較的安定しやすい 点はあるものの、必ずしもコストが抑制されるというわけではありません。特

- 38 -



に、現在のような全て の原料が高騰している 状況であれば、コスト メリットがあるわけで はありません。

魚粉不使用飼料の価値の1つは「限りある海洋資源を守る」こと、

SDGsの達成に貢献できることだと考えています。今は学校でもSDGsを学ぶ時代でもあり、今後、社会貢献に繋がる商品を購買する消費者の方は増えてくることが予想されます。魚粉不使用飼料はこうした社会のニーズにも応じることが可能です。

また、天然資源に依存しないため、持続可能な養殖の実現に貢献することができると考えております。

5. おわりに

魚粉不使用飼料についてはすぐに市場の中で拡販するというのは難しいと 考えておりますが、理念に賛同していただける養殖業者の方から取組を進め たいと考えております。その際には、まず、低魚粉飼料と組みあわせて利用 し、養殖期間全体での魚粉使用量の削減を目指すことを提案させていただき ます。

今回紹介させていただきました「鯛 α -ZERO」,並びにその他水産用飼料に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

【中部飼料株式会社 水産部 名古屋営業所】

電話番号: 0562-33-2107

受付時間:月曜日~金曜日(祝日, 年末年始, 夏季休暇等を除く)

9 時~12時, 13時~17時

シリーズ 各地の食生活

モンタナ州でも定番料理はハンバーガー

Columbia Grain International LLC 堀木 孝司



ここモンタナ州は米国北西部に位置し、カナダとの国境に接する、米国で4番目に広い面積を持つ州です。面積は38万km。ちょうど日本と同じ面積です。西部にはロッキー山脈が南北に連なり、中央部、東部はカナダから広がるThe northern Great Plainsの平原が続きます。またミズーリ川がロッキー山脈を起点にモンタナ州を西から東に横断するように流れています。

USDA等の統計データによるとモンタナ州の人口は109万人。牛の飼養頭数



冬小麦



Great Falls遠景

は肉用牛を中心に250万頭。人より牛のほうが多く、人口密度は日本の10分の 1以下です。

モンタナ州の農地面積は23.5万km。州の面積の60%が農地になります。農家の戸数は26,900戸。1つの農家の農地面積は8.7kmで東京ドーム約180個分の広さになります。この広大な農地の中で主に小麦、大麦、牧草、菜種等が生産されます。

筆者の駐在しているGreat Falls はモンタナ州の中央のやや西寄りに位置する,人口6万人のモンタナ州で3番目に大きな街です。街を縦断するように南から北にミズーリ川がゆったり流れており,ここに広大な滝が2つあることから、街の名前がつきました。

さて本題のお料理の紹介ですが、ここモンタナ州でも欠かすことのできない料理はハンバーガー。アメリカの定番料理の1つです。

統計データによるとアメリカ人のハンバーガー消費数は1日2.4個。全米で年間500億個のハンバーガーが消費されていることになります。

ここ Great Falls にも Mc Donald's, Burger King 等の全国チェーンのハンバーガー店もありますし、地元のハンバーガー店もあります。また街のレストラン、スポーツバー、郊外の集落のバーでもハンバーガーは欠かせないメニューの1つになっています。

会社の同僚とハンバーガーの話をすると、「どこのお店が一番おいしい!」「いや、あっちのお店のほうがおいしい!」「あそこはポテトがおいしい」等、話が尽きることがありません。

今回はここGreat Fallsで筆者が美味しいと思い、何度も通っているハンバーガー店、レストランをご紹介します。

1. Roadhouse Dinner

ここはGreat Fallsの誰もが認める,市内で1番美味しいハンバーガーショップです。

パテはモンタナ州で肥育した牛肉を、毎日お店でミンチにしているこだわりよう。ホームメイドを感じさせるソースと味付けと、美味しい野菜。付け合わせの大量のフライドポテトも思わず全部食べてしまいます。

ハンバーガーのトレイに敷いてある奇抜なデザインの紙と店内のポスター。 ネーミングの面白い週替わりのハンバーガーもあり、筆者も毎週お店の Facebookを見て週替わりメニューをチェックしています。

お店はBeamご夫妻が 2015年に始めたばかりです が、あっという間に大人気 なお店となり、毎年Best of the Bestのハンバーガーシ ョップとして様々な賞を獲 得しています。店員の皆さ んも楽しい人たちばかり。 お店の中は笑顔になります。



Roadhouse Dinner外観



Roadhouse Dinnerのハンバーガー



Roadhouse Dinner店内

ここのちょっと変わったハンバーガーメニューは「PB&JBurger」。バーベキューソースの代わりにピーナッツバター(PB)とブドウジャム(J)を塗って味付けしています。甘くないピーナッツバタ

ーとジャムの酸味が、ちょうどお肉のパテとベーコンにもマッチして美味しいハンバーガーに仕上がっています。友人に聞いたところ、ピーナッツバター好きの一定のお客さんには大好評とのことです。

2. Great Falls Black Bear Dinner

こちらは米国西海岸を中心に全米で約150店舗のダイナーを展開するレストランチェーンのGreat Falls 店です。

日本でいうファミレスに 近いレストランで, ハンバ ーガーだけでなく, パンケ ーキ, オムレツ, サンドイ ッチ, ステーキ, デザート も揃っています。

名前の通り黒クマがお店 のキャラクターで、お店に は至る所で可愛くて愛嬌の ある木彫りの黒クマがお出 迎えしてくれます。

ここのハンバーガーは, 軽く焼いて, バターで香ば しく味付けしたバンズ (パ ン) が特徴です。パテもし っかりした食感でお肉の味 も楽しめます。

またハンバーガーとは異なりますが、ここのお店の「Tri-Tip Dip」というサンドイッチもお薦めです。チャバタという香ばしくてあっさりしたお味のパンに、 蓮切りのローストビーフが



Black Bear Dinner外観



Black Bear Dinnerのハンバーガー



Black Bear Dinner Tri Tip Dip

挟んであり、「Au jus」ソースに浸して食べます。このソースはローストビーフの肉汁をコンソメで味付けしたソースのようですが、このソースがパンにもお肉にもしみ込んで、この塩味が日本のお醤油を思い出させてくれます。 筆者も何度か市販のソースで「Au jus」ソースを作ったことがありますが、なかなかお店の味は出せません。

ところで筆者は6月初めに野生の黒クマに遭遇。Great Fallsから車で30分のところにあるロッキー山脈の麓のミズーリ川沿いでマス釣りをしていたら、川の向こう岸に1匹の黒クマを発見。黒クマは川を泳いでこちらの岸に向かってきたので、釣りをやめて退散。周りの釣り人も黒クマに気づいてはいましたが、逃げ出したのは筆者だけでした。

早速翌日ホームセンターでクマ避けスプレーを購入しました。スプレーに は唐辛子の激辛成分がたくさん入っているそうです。それ以降、魚釣りなど 自然の多い地域に行くときはこのクマ避けスプレーを持参しています。

3. Cabin Creek Bar

ここはGreat Fallsから東に70kmほどのところにある小さな町のバーです。 ドライブの途中、昼食で立ち寄ったお店なのですが、美味しいベーコンチー

ズバーガーとフレンドリー なオーナーにハマってしま いました。

お店の構えは少々古く、 バーなのでお店の中も少し 暗いのですが、明るく気さ くなオーナーのChadが出 迎えてくれます。Chadは Great Falls出身ですが、彼



Cabin Creek Bar外観



Cabin Creek Barのハンバーガー



Cabin Creek Bar店内 (筆者の後ろの右の男性がオーナーのChadです)

のお父さんがこの小さな町の出身ということで,ここにお店を構え,毎日通ってお店を開いているそうです。

今回ご紹介したお店のハンバーガーはいずれもとても美味しいだけでなく, 店員さんも笑顔で楽しく, 1人で行っても優しく接してくれます。カウンターに座れば店員さんだけでなく,お隣に座ったお客さんとも友達になれるかもしれません。

今回は紙面の都合上3店しかご紹介出来ませんでしたが、Great Fallsそしてモンタナ州にはたくさんの美味しいハンバーガーのお店があります。

それからモンタナ州の人たちはみな優しく親切です。Great Falls そしてモンタナにいらっしゃる際は、是非モンタナの人たちの優しさに触れながら、本場の美味しいハンバーガーとポテトをご賞味ください。

わが社飼料関連部署の新人紹介



三菱商事株式会社



安住 勇輝 (あずみ ゆうき) 穀物飼料部 飼料チーム

座右の銘:習慣は第二の天性なり

今年度入社いたしました, 飼料チームの安住勇輝と申します。高校までは 東京で育ち、大学時代はインドに留学し、経営学を学んでおりました。

皆様とのお付き合いを通して少しでも早く業界知見を深め、お役に立てるよう精進してまいります。未熟な私ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



豊田 賢太 (とよだ けんた) 穀物飼料部 麦チーム

座右の銘:思い立ったが吉日

この度、麦チームに配属になりました、豊田賢太と申します。大学在学時は修士課程で生物学を学びながら、課外活動として大好きなうどんの魅力を世界に発信すべくうどんサークルを設立し、活動をしておりました。この度は自身の最も興味のある食の分野、中でもうどんの原料である麦を取り扱うチームに配属されましたことを大変嬉しく思っております。

持ち前の好奇心で知識を積極的に吸収し、一日でも早く業界の皆様に貢献 できるよう、精進してまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろし くお願いいたします。



渡邉 延暁(わたなべ のぶあき) 穀物飼料部 コーン・マイロチーム

座右の銘:雪に耐えて梅花麗し

今年度入社いたしました,コーン・マイロチームの渡邉延暁と申します。大学在学時は経営学を専攻し,一方で体育会ワンダーフォーゲル部では主将を務めておりました。生活に不可欠な食の根幹を支えるビジネスに携われることに使命感と高揚感を感じております。未熟な私ではございますが,ご指導ご鞭撻のほど,何卒よろしくお願いいたします。

三井物産株式会社



藤 阪 諒 (ふじさか まこと) 食糧事業部 飼料原料室繊維原料チーム

今年4月に三井物産に入社し、飼料原料室に配属になりました、藤阪諒と申します。「諒」と書いて「まこと」と読む名前は珍しく、幼少期より「りょうくん」、と性別を間違えて呼ばれることが日常茶飯事でした。そのためか、男勝りな性格となってしまいましたが、所属室のしなやかなれど、強さのある女性の先輩方のようになれるよう、精進してまいりたい所存です。

大学ではゴルフ部に所属し、高校茶道部の日々から一転し、ゴルフレンジとウエイトルームで学生生活を過ごしてまいりました。茶道とゴルフ、一見対局しているものとも見られますが、実は共通点がございます。茶道では季節の些細な変化に合わせて、茶室の装飾や、抹茶の品種/量を調整し、一服のお茶を完成させます。ゴルフでは、その日の天気/芝/風を察知し、自分自身を調整し、一つのカップへとプレーを完成させます。茶道では「行雲流水」とも言われますが、両者とも自然の流れに身を任せつつ、その状況に適応する工夫が求められるのです。

さて、穀物・飼料業界は日々、目まぐるしく状況が変化いたします。その中、適応力を発揮し、日本の食を支えている皆様のように、私も成長してまいりたいと感じております。「行雲流水」に倣い、流れに身を任せながら対応していく、そして、やがては皆様と力を合わせ、流れを作り上げられるよう、最大限に尽力いたしますので、何卒、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



長谷川 万紘 (はせがわ まひろ) 食糧事業部 飼料原料室繊維原料チーム

今年4月に三井物産に入社し、飼料原料室に配属になりました長谷川万紘と申します。幼い頃からクラシック・バレエに没頭し、大学では競技チアダンス部に所属しておりました。思い描いていた華やかな大学生活とは異なり、蒸し暑い体育館で汗水流しながら練習に勤しむ毎日でしたが、同じ志を持つ戦友達との思い出はかけがえのないものとなりました。

そんな大学生活を送っていた私ですが、2年生の頃、前十字靭帯を損傷し、 1年間選手生命を絶たれた経験があります。一度は退部を考えましたが、持 ち前の忍耐力でリハビリと向き合い、最後まで活動を継続することが出来ま した。一見ふわふわしているように見られることが多いのですが、実は粘り 強い一面もあると自負しております。

今後も柔らかさと粘り強さの二刀流で逆境を乗り越え、成長してまいりたい所存です。至らぬ点が多々あるかと存じますが、どんな時も素直に学ぶ姿勢を忘れず、1日でも早く皆様のお役に立てるよう、精進してまいります。ご 指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



前原 利哉 (まえはら としや) 食糧事業部 飼料穀物室

今年4月に三井物産に入社し、飼料穀物室に配属となりました、前原利哉と申します。

出身は広島で、高校までカープの洗脳教育を受けて育ちました。大学入学とともに上京してからは肩身の狭い思いをしつつ、カープ愛を忘れずに生活しておりました。現在の私の指導役である久保田は巨人ファンのため、野球の話だけは常に対立をしております。

大学・大学院では薬学を専攻し、発生期の脳の成り立ちについて研究し、生命の神秘に関して造詣を深めておりました。特に脂質・タンパク質の影響をテーマにしておりましたので、世の中の供給源として大きな地位を占める畜産を支える飼料業界に現在関わることが出来まして、大変光栄です。

まだまだ未熟であり、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、研究で大事にしてきた論理的に考える癖を忘れず精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

双日株式会社



後藤 佑理 (ごとう ゆり) 食糧事業部 食料原料課

皆様,初めまして。食料原料課に配属となりました,後藤佑理と申します。 大学卒業まで京都で過ごし,社会人生活スタートを機に上京してまいりま した。

大学では国際経済学と中国語を学び、中国の大連市に留学していました。留 学中には、多国籍の留学生達と共にダンス発表に注力し、生まれた国や、育 った環境も全く異なる仲間と、同じ目標に向かってチームとして協同する楽 しさと難しさにやりがいを感じました。

しかしコロナ流行により強制帰国となり、その悔しさから世界を舞台に更により多くの多様な価値観を持つ人達と協同し、新たな価値を創造したいと 商社を志望しました。

趣味はバレー・ランニング・筋トレなど体を動かすことが大好きで、最近 はゴルフに情熱を燃やしています。

至らぬ点ばかりの未熟者ではありますが、積極的にあらゆることを吸収し、 1日でも早く皆様のお役に立てるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻の 程、よろしくお願いいたします。

丸紅株式会社



佐川 友規 (さがわ ゆうき) 穀物油糧部 蛋白飼料課

皆様、初めまして。この度、穀物油糧部蛋白飼料課に配属となりました佐 川友規と申します。

学生時代は体育会のサッカー部に所属し、サッカー漬けの日々を送っておりました。大怪我や手術に見舞われる逆境の多いサッカー人生でしたが、そこから培った精神力を武器に穀物業界の大海原に飛び込んでまいりたいと思います。

配属から2カ月が経ち、現場の視察やお取引先との面談を重ねるにつれ、自分の業務が様々な関係者の方々に支えられ成り立っていることを自覚し、身が引き締まる思いです。将来、皆様のように穀物業界を担う人材となれるよう、誠心誠意日々業務に向きあってまいります。

まだまだ未熟者ではございますが、どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしく お願い申し上げます。



三輪 優香 (みわ ゆうか) 穀物油糧部 穀物課

皆さま、初めまして。この度、穀物油糧部・穀物課配属となりました三輪 優香と申します。

現在はとうもろこしのプライシングを担当しております。今後ご指導賜りますようお願い申し上げます。

実は、沖縄で生まれ育った生粋のうちなーんちゅ(沖縄人)で、就職を機に上京してまいりました。大学時代は3年間、沖縄県の特産品であるモズクの研究に励み、モズクのために潮の満ち引きに合わせて生活を送っておりました。今後は、穀物を知り、穀物と共に社会人人生を謳歌したいと思っている所存です。

趣味は精油集めと散歩で、昨年から父の影響でポケモンGOにはまっています。休日は睡眠欲に負けず早起きし、近所の公園で散歩しながらポケモン収集に精を出しています。最近は一緒にイベントに参加してくれるフレンドを社内外で募集中です。今後は東京の美味しい食べ物に出会い、素敵な人と場所に巡り合うために行動範囲を徐々に広げていきたいです。

よく笑い,よく食べ,素直に学び日々成長していきます。これからよろしくお願いいたします。



村上 真子 (むらかみ まこ) 穀物油糧部 麦・油糧課

皆様,初めまして。穀物油糧部 麦・油糧課に配属されました村上真子と申 します。

生まれは山口県で、フグをはじめアマダイ、アンコウ、のどくろなどプリ プリの白身魚がおいしい場所で育ちました。また、幼少期の頃から9年の間、 フェンシングに打ち込んでおりました。北京オリンピック銀メダリストの太 田選手に憧れフェンシングを始め、本場のフランスへ遠征することを目標に 日々練習しておりました。

大学では、学園祭実行委員会に所属をし、史上初のリモート文化祭企画を 担当いたしました。コロナ禍の運営は想像以上にとても大変でしたが、貴重 な経験となりました。趣味は、野球観戦で週末は球場で家族時間を楽しんで おります。

日々の業務を通じ、業界、商品に関する知見を深めるため、一生懸命精進 してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

豊田通商株式会社



人見 悠貴 (ひとみ ゆうき) 穀物事業部 穀物受渡グループ

皆様はじめまして。穀物事業部受渡グループに配属となりました,人見悠 貴と申します。

奈良県生まれ、22年間関西で過ごしてまいりましたが、本年から生活や環境様々なことが一変しております。大学では20~55歳の方々が所属する社会人サッカーチームでサッカーに取り組み、野球に関しては甲子園で観戦し、時に国内外に旅行へ行く生活を送り、学生生活を楽しんでおりました。

当部署に配属され、穀物ビジネスのスケールの大きさや日本の食生活を支えている重要性を知り、自分自身がその担い手として担当していけることを非常に嬉しく思っております。まだまだ未熟者ではありますが、自分自身の持ち前の明るさや愚直さで日々業務に取り組み、皆様と共に穀物業界を支えていけるように邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



栗田 健吾 (くりた けんご) 大阪食料部 大阪穀物油脂グループ

皆様はじめまして。大阪食料部大阪穀物油脂グループに配属となりました 栗田健吾と申します。

大阪生まれ大阪育ち、学生時代も関西で過ごしてきました。中学高校は軟式テニスをしてきました。大学時代は、コミュニケーション学を専攻しており、特に英語の分野を中心に勉強しておりました。そのほかにも大学時代はカナダに留学、旅行、ビジネスなどやりたいこと、挑戦したいことをやってきました。

この穀物業界では、日本の食生活を支えることのできるビジネスができること、世界を舞台にビジネスをしていけることを非常に嬉しく思っております。学生時代と同様、積極的に行動し穀物業界に貢献していきます。そしてこの仕事を通して、営業、物流、ビジネスの基礎を学び、商社パーソンとして活躍できる人材に成長していきたいと考えております。

まだまだ未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いい たします。

兼松株式会社



伊東 周敏 (いとう ちゅみん) 飼料穀物部 粗飼料課牧草チーム

本年度より新卒採用にて入社しました伊東周敏と申します。

粗飼料課牧草チームに配属されました。皆様に名前と顔を是非覚えていただこうと思いまして、簡単ですが自己紹介をさせていただきます。

私の産まれは韓国ですが、1歳になる前には来日し、それから大学院修了

するまで九州の福岡で過ごしてきました。父親が韓国人で母親が日本人のハーフです。名前が「ちゅみん」と可愛い名前ですので、少しでも覚えていただけたらなと思います。

小学生からサッカーに明け暮れており、高校卒業まで続けておりました。しかし、先日弊社のサッカー厚生会(部活のようなもの)に参加させていただきましたが、自身の身体の衰えに衝撃を受けました。今後、鍛え上げていく予定であります。

九州大学に入学し、大学院修了まで「酒、タバコ、バイク、麻雀、研究活動」に熱中しておりました。それはもう走れる身体ではありません…。バイクを購入してからは九州中を走り回っておりました。かの有名なツーリングスポットである阿蘇山には何十回赴いたのか分かりません。上京に際して愛車を手放してきましたので、お仕事頑張ってまた購入することが現在のモチベーションの1つでもあります。

弊社に入社してからは非常に充実した日々を送っております。仕事面では 優しい先輩方にご指導いただきながら、只今業務に関して勉強しております。 プライベート面では、同期皆が同じマンションに住んでいるため、毎日夜に 「今、飲んでる?」という連絡が来ます。非常に恵まれた環境で社会人生活を 送らせていただいており、周りに感謝し成長していきます。

最後になりますが、今後皆様と良い仕事が出来るように精一杯精進してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

シリーズ 各商社の担当者紹介

三菱商事株式会社

弊社自慢の食糧本部穀物飼料部社員のご紹介 鳥井 慎太郎

(三菱商事(株)穀物飼料部飼料チーム)

いつもお世話になっております。穀物飼料部飼料チームで入社以来一貫して粗飼料を担当しております、5年目の鳥井慎太郎(とりいしんたろう)と申します。初めてご挨拶させていただく皆様につきましては、この場を借りてご挨拶申し上げます。

弊社の牧草事業は会長の垣内がかつて担当していた仕事でございます。今年1-2月頃に飼料業界を覆ったコンテナ物流の混乱。それに伴う在庫不安



ビート畑に佇む筆者

の時は日々、将来は社長なのだから!という暗示をかけて頑張っておりました。(冗談でございます。笑)

そんな私ですが、2022年の抱負はベタではありますが、「趣味を増やす」でございます。自分の知らない未知の体験に積極的に挑戦したいと思っておりますので皆様是非、様々な体験にお誘いいただけますと幸いでございます。また、コロナの状況次第ではございますが会食等も是非ご一緒させていただきたく、よろしくお願いいたします。

まだまだ若輩者ですが本邦飼料業界に少しでも貢献できるよう精進いたしますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

前置きが長くなってしまいましたが、それでは以下にて弊社自慢の4人の 社員をご紹介いたします。

◆堀口 泰幹(ほりぐち ひろまさ)

(穀物飼料部コーン・マイロチーム マネージャー)

皆様はじめまして(の方も多いかと存じます),三菱商事の堀口泰幹と申します。2011年に当時の飼料畜産部飼料チームに配属されて以来早11年余り,一貫して飼料業界に携わってまいりました。入社当初は粗飼料を主に担当し,その後豪州配合飼料メーカーRiverina社での研修,本邦配合飼料メーカー日本農産工業株式会社への出向を経て,現在コーン・マイロチームに所属しております。昨年までは、JFTA主原料委員会に弊社担当として参加しており,各社のご担当者様には大変お世話になりました。

現在、妻と息子2人の4人家族でして、近々5人家族になる予定です。週末はもっぱら子供達と過ごしつつ、豪州で始めた趣味のサーフィンを(全くもって上手くなりませんが)、ゆるりと続けています。家庭内交渉の結果勝ち取った条件は、2週間に一度、午前中には帰宅することです。会社の準硬式野球部の試合にも参加していますが、30歳を超えてさすがに体の衰えを感じ、毎回肉離れに怯えながらプレーしています。

- 58 -



飼料原料・資材高騰の環境下、対面業界の方々は非常に厳しい事業環境に 晒されております。業界の先輩方々からすれば私自身はまだまだひよっこで すが、弊社としても個人としても、少しでも業界のお役に立てるよう、精進 してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

◆山 田 遥 (やまだ はるか)

(穀物飼料部コーン・マイロチーム)

入社9年目の山田遥と申します。2014年入社時は加工食品関係の部署に配属となり、2018年に穀物飼料部へ異動、飼料用コーン/マイロ/飼料麦のバ

ックオフィス業務を担当しておりました。2021年度は産・育休のため、まるっとお休みをいただき、2022年5月より復職、食品用コーンのバックオフィス業務を担当しております。休職前にお世話になりました皆様にも、初めましての皆様にも、この場をお借りして改めてご挨拶申し上げます。

簡単にではございますが、自己紹介をさせていただきます。出生地は鳥取、育ちは横浜です。「横浜問題」と揶揄されがちですが、しっかり横浜です。大学時代は、ダンスに打ち込んでおり、現在はもっぱら子育てに時間を取られておりますが、社会人になってからも細々と続けておりました。美味しいご飯とお酒が大好きで、天気の良い日に昼から楽しく飲むお酒が至高だと思っています。

現在は、久しぶりの職場復帰に脳をフル回転させる日々ですが、しっかりとキャッチアップし、業務に邁進する所存です。このような状況下ですので、なかなか直接ご挨拶させていただく機会もないかとは思いますが、コロナが収束した際には皆様にお会いできますことを楽しみにしております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



◆ 庸島 拓也 (ひろしま たくや)

(穀物飼料部飼料チーム)

平素よりお世話になっております。三菱商事穀物飼料部の廣島と申します。 5年目年次になります。直接ご挨拶できておりませんでした皆様には、この 場を借りてご挨拶申し上げます。

5年目 "年次"と申しますのも、下名は18年3月に大学を卒業後、新卒では他社に入社し、弊社には20年度末に所謂中途入社しております。前職はFAS系コンサルティング会社の事業再生部門に約3年間在籍し、主に事業再建計画策定支援やM&A関連の業務等に従事しておりました。転職の動機について詳細に記載いたしますと、紙幅が尽きそうですのでここでは割愛させていただきます(酒席ご一緒させていただける機会がございましたら、3時間程度お話しいたします)が、大きな動機は食のサプライチェーンに携わる



最近の筆者

仕事に就きたいと考えたことです。弊社に入社後は、主にDDGSの受渡/買付/ご成約業務等を担当しております。

生まれは兵庫県加古川市、育ちはその隣の加古郡稲美町というところです。稲が美しい町と書く通り、一面に田畑が広がる地域で、少年期を過ごしました。実家の近所に酪農家さんがおり、幼い時にはよく牛を見に行っていました。大学入学と同時に上京し、今年で関東は9年目です。仕事では専ら標準語でお話ししておりますが、稀に語調が関西弁となります。地元の友人にうっかり標準語で電話すると、「関西弁はどこいったんや!」と指摘されたりしますが、関西弁話者と話をすると、すぐに関西弁に戻ります。自称、標準語と関西弁のバイリンガルです。休日はバイクでツーリングに出掛けたり、お酒を飲みに行ったり、ゴルフ(未熟プレイヤーです)に行ったりしています。

直近はお客様や港湾会社各位と会食させていただく機会も増えてきており、 大変嬉しく思っております。感染症対策には予断を許さない状況が続きます が、状況を鑑みつつ、少しでも多くの皆様とご一緒したく存じます。引き続 きご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。

◆櫻本 智世(さくらもと ともよ)

(穀物飼料部飼料チーム)

いつもお世話になっております。入社5年目の櫻本智世と申します。初めてご挨拶させていただく皆様におかれましては、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

入社時から一貫して大豆粕のデリバリー事務を担当しておりましたが、直近ではDDGSや魚粉等他の商品を担当する機会が増え、5年経った今でも学びの絶えない充実した日々を送っています。

大学時代はスキーサークルに所属しており、冬のシーズンは1~2か月間 雪山に籠り、スキースクールでアルバイトをしながら仲間と青春を謳歌して おりました。

- 62 -



サマースキーを楽しむ大学時代の筆者

現在も会社のスキー部で活動しており、社会人になっても新しい仲間と巡り合えることに喜びを感じております。ハイシーズンは毎週末雪山へ練習(遊び)に行くので、金曜日の夕方以降は早く仕事を終わらせることで頭がいっぱい、というのはここだけの話です。

また,夏の趣味を求めて数年前からゴルフを始めておりますが,スコアが伸び悩んでおりますので、廣島と一緒に練習したいと思います。

事務職という立場上,皆様と直接お会いする機会は少ないですが,今後とも引き続きご指導とご鞭撻の程,よろしくお願いいたします。

●とき:令和4年7月1日

米国産トウモロコシの需給と シカゴ相場動向



<安瀬明良氏>



<高橋千明氏>



<大垣和平氏>



<竹内宏一郎氏>



<加藤 淳氏>



<長谷川朝飛氏>



<藤原 玄氏>



<岡田圭介氏>

出席者——(社名ABC順,敬称略)=

安瀬 明良 伊藤忠商事㈱飼料·穀物部 飼料課

高橋 千明 兼松㈱穀物飼料部 穀物課 課長補佐

大垣 和平 丸紅㈱穀物油糧部 穀物課

竹内宏一郎 三菱商事㈱穀物飼料部 コーン・マイロチーム

加藤 淳 三井物産㈱食糧事業部 飼料穀物室

長谷川朝飛 双日㈱食料事業部 食料原料課 飼料原料チーム 藤原 玄 豊田通商㈱穀物事業部 穀物トレードグループ

<司会>

岡田 圭介 豊田通商㈱穀物事業部 穀物トレードグループ

司会 皆さん、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。座談会の司会を務めさせていただきます豊田通商の岡田と申します。よろしくお願いします。今回は会場とオンラインでのハイブリッドでの開催となります。

今年の座談会は例年以上にトピックに溢れたものになっているのではないかと思います。ロシアによるウクライナ侵攻,これに端を発した世界的なコモディティ価格の高騰とインフレ,あるいは四半世紀ぶりの円安局面といった我々飼料畜産業界にも非常に大きなインパクトを与える出来事が相次ぎました。これらを振り返りながら本日は皆さんと有意義な意見交換ができればと思います。

では最初に、6月末までのシカゴトウモロコシ定期相場展開総括について 豊通の藤原さんよろしくお願いします。

●過去1年間のシカゴ定期相場を振り返って

藤原 豊田通商の藤原です。よろしくお願いいたします。私からは、直近 1年間のシカゴ相場の振り返りをさせていただきます。

昨年この座談会が行われた 7月5日の期近限月の引け値は 6 ドル56セントでした。今日に至るまで 1 年間の期近限月最高値は2022年 4 月29日につけた 8 ドル27セント,最安値は2021年 9 月10日につけた 4 ドル88セントでした。

値動きとしては、2021年7月から9月中旬までは弱含んだものの、それ以降は基本的には上値を追う展開が継続したような相場展開でした。

もう少し細かく見ていきますと、2021年8月は、シカゴへの影響は限定的でしたが、米国中西部を襲った大型ハリケーンのアイダがありました。その後、ハーベストプレッシャー等々あり9月前半まで下落相場だったのですが、9月後半はブラジルのファーストクロップ作付け前の乾燥懸念等により反発したという感じでした。

10月に入って、継続する中国の買付けや、ブラジルだけではなくアルゼンチンも乾燥懸念が出たりして、相場が底支えされたような形になっていました。

11月に入ると、小麦の世界的な供給懸念が出て、連れ高し、12月は、米国

のエタノール使用量が回復するのではないかという需要増の材料がありましたので、そこでも上昇となりました。

年が明けて2022年になり、1月にロシアがウクライナ国境付近で軍事増強 したことを受けて上昇、ついに2月24日に軍事侵攻を開始し、7ドルを超え る相場展開となりました。

ただ、翌2月25日には50セント反落したりして非常に乱高下した相場展開となり、3月4日には8ドルまでつけましたが、不透明感から7ドル台を何度も乱高下した展開となりました。

4月になると、米国の降雨過多によるトウモロコシの作付け遅延懸念が出まして、直近1年間の最高値である8ドル27セントをつけました。

5月には、インド政府が小麦の輸出を停止するなどのニュース等により底 支えされましたが、6月下旬になると、米国の生育が順調にキャッチアップ したことや、金利上昇、インフレ加速、世界経済の停滞懸念等々もあり、コ モディティ相場全体が下落したという形になりました。

昨日6月30日に発表された四半期在庫報告でも、予想レンジの上限いっぱいのような形で報告がありましたので、直近は軟調な相場展開となっております。

司会 ありがとうございました。昨年9月後半以降は藤原さんのおっしゃる通り、一方的に強い相場展開となりました。さらに最後のだめ押しとしてのウクライナ侵攻があり高値圏でのボラティリティの高い展開が続きましたので、お客様のプライシングも非常に苦労されたのではないかと思います。幸い、ここしばらくは天井をつけた感がありますが今後の動きについても引き続き皆さんと議論していければと思います。

続きまして米国産トウモロコシ旧穀の見通しについて、まずは供給動向を 伊藤忠の安瀬さん、よろしくお願いいたします。

●2021/22年産米国産トウモロコシ(旧穀)の供給動向

安瀬 伊藤忠の安瀬です。よろしくお願いいたします。旧穀の供給は変動

- 66 -

が限られてきて、皆さんの興味も限定的だと思いますので、簡単に触れさせていただければと思います。例年通り、作付面積と単収の2つの部分からお話しさせてもらえればと思います。

まず作付面積は、去年3月の作付け意向面積の段階で9,100万 acre と出ており、その後、6月に9,300万 acre で、最終的に9,400万 acre と徐々に増えていく展開で、一番のポイントは休耕地が活用されたのではないかという点です。

単収に関しては、最初は傾向値単収である179.5から始まり、実地調査が入った8月で174.6と下げたものの、その後、9月で176.3、最終的には177とレコードハイとなり、天候の懸念もあった中で、最終的には史上最豊作となったことで、タイトな状況がある程度救われたのかなと思っています。

生産量は当初150億 bu だったものが、単収が最終的には傾向値より減ったものの、作付面積がカバーする形で150億 bu を若干上回る結果となりました。ただ、それでもなお、今年6月の需給報告の発表での旧穀での期末在庫率は10%、1月分相当となり、作付けが遅れたことでかなりタイトな状況となっております。この状況を受けてより一層、商社としての安定供給への責任の重さを感じるような結果となったと思っています。

司会 ありがとうございました。懸念含みでスタートしたものの、単収は 結果的に蓋を開けてみればレコードハイとなり、在庫についても回復を見せ たということでやれやれというところだったかと思います。

続きまして、旧穀の需要動向に移ります。三井物産の加藤さん、よろしく お願いします。

●旧穀の需要動向

加藤 三井物産の加藤です。よろしくお願いいたします。旧穀の需要動向 についてお話しさせていただきます。

6月のUSDAの発表の米国産の総需要量は148億9,000万 bu, 前年20/21年 クロップの同数量は148億2,000万 buでしたので、ほぼ前年並みの総需要量で あったことになります。

需要を構成する要素ごとに見ると、増減がありまして、ハイライトとして は輸出量の減少とエタノール需要の増加になると思います。

輸出需要に関しては、USDAの6月の発表では24億5,000万 bu, 前年が27億5,000万 buでしたので、約3億 bu 前年から輸出のボリュームが減少しています。この最大の要因は、中国の輸入量の減少にあるかなと見ています。中国の需要自体は引き続き高い水準にはあると思いますが、一方で同国のバランスシートを見ると、期末在庫率は比較的高い水準になる様子ですし、かつ、今年の生産量も昨年同様2億7,000万トン程度、豊作と言える水準が予想されていますので、中国はあまり急いで輸入するポジションではないのかなと思います。

ロシアとウクライナの戦争が始まった2月以降,アメリカへの買付け産地の転換や緊急買付という動きが中国のみならず,様々な国でも見られはしましたが,1年間でならして見ると総じて昨年よりは輸出成約量は減少した1年であったということになります。

エタノールに関しては、USDAの6月の発表は53億8,000万 bu、前年は50億3,000万 buで、こちらは3億 bu以上増加しています。これは皆さんもよくご理解の通り、アメリカがコロナから景気回復を果たし、ガソリン需要が高まったことを背景として、エタノールの生産量が非常に高まっているということです。足元も1日あたりのエタノール生産量が100万バレル以上と高水準ですので、引き続きエタノールに関しては、非常に旺盛と見て良いと思います。

以上、繰り返しにはなりますが、輸出量の減少とエタノール生産量の増加で打ち消し合い、概ね前年並みの需要量が確認された旧穀と見ています。

司会 ありがとうございました。やはり輸出・中国・エタノールが影響を大きく及ぼしました。また中国に関してはウクライナ問題が米国からの買付けに繋がりました。旧穀のみならず新穀についても、これらのファクターは今後もポイントとなってくるだろうと思いますので、追って皆さんと深堀っ

- 68 -

てお話しできればと思います。

次に旧穀6月末発表の四半期在庫について,双日の長谷川さんよろしくお 願いします。

長谷川 よろしくお願いします。旧穀の四半期在庫は,事前予想平均で43.4 億 bu という中で,ほぽぴったりの43.5億 bu という数値で落ちつきました。

USDAの計画値等もこのタイミングなので、計画値が43.5億と、ぴったりの数値で発表されています。市場にとってもサプライズではないと私は認識しています。43.5億 bu のうち21.2億 bu が農場在庫で、残りの22.3億 bu が農場以外の在庫という整理です。

旧穀においては未曾有の相場高から作付面積が急激に拡大し、過去直近だと2016年の94.7百万 acre が最数値ですが、それ以降で最大の93.4百万 acre という結果になっています。

供給サイドにおいては、前年比から3.2億 bu の増加、需要サイドだと0.85 億 bu の増加ということで、差し引き2.35億 bu の増加となりました。

我々商社にとっても、日本のユーザー・飼料メーカーにとっても、マイナスでない分、安心できる材料になったかと考えています。

全体を通して言うと、三井の加藤さんもおっしゃっていましたが、エタノールの需要が伸びている面や、中国の輸入が減少したことが大きく影響が出ていますし、他には飼料の部分、畜産物の減少も影響が大きく出ていて、その結果、ほぼ予想通りではありますが、若干の増加という結果になったと考えます。

司会 ありがとうございました。確かにほとんどサプライズもなく、皆さんがお話しいただいたような材料を踏まえて今の結果になりました。しかしながら、例えばエタノールではポストコロナでのガソリン需要回復状況が注目されますが昨今の価格高騰でガソリンを1回入れるだけでもすごいお金になってしまうという現実も無視できず、物事はそう単純ではないかな、と思うところです。

それでは、旧穀の最後、期末在庫見通しについて、皆さんにお聞きしたい

と思います。はじめに丸紅の大垣さん. よろしくお願いします。

●旧穀の期末在庫率見通し

大垣 丸紅の大垣と申します。よろしくお願いします。

旧穀の期末在庫率の見通し予想は、最新が10%弱、ほぼここに落ちつくのかなと考えています。この先、供給サイドは変更なく、需要サイドに関しては食品、飼料、エタノールは据え置き、輸出に関しては若干減少する可能性も否めませんが、この段階においてはおよそUSDAの発表通りかなと思っています。

司会 ありがとうございます。続きまして、伊藤忠の安瀬さん、よろしくお願いします。

安瀬 6/30に発表された在庫数量から飼料需要は若干上方修正されると 考えたため、9.6%でお願いいたします。

司会 わかりました。続きまして、三菱の竹内さん、よろしくお願いします。

竹内 初めまして。三菱商事の竹内と申します。入社当初から大豆粕などの 副原料に携わらせていただきましたが、その後1年半程度の戦略企画関連の部 署を経て、穀物部隊に戻って参りました。今後ともよろしくお願いします。

さておき、弊社は旧穀の期末在庫率を10.55%と予測しています。供給サイドは据え置き、需要サイドはエタノール生産量を54億 bu、輸出数量を23億5,000万 bu と予測しました。

エタノールに関しては、三井の加藤さんがおっしゃったように、コロナ禍からの経済復興によるガソリン需要の高まりに伴って、エタノール生産量の足元数字は1日当たり100万バレル超を記録し、今後も継続して旺盛な需要になるものと予測しています。

輸出に関しては、少し前のデータにはなりますが、6/16時点の実績を見る限り、USDAが予測する24億5,000万buには届かない印象を受けています。司会 ありがとうございます。続きまして、兼松の高橋さん、よろしくお



座談会風景

願いします。

高橋 先ほど竹内さんより言及をいただきました同様,輸出需要は現時点 USDA プロジェクション24億5,000万 buをやや下回るペースとなっており期 末在庫の見込みは,若干インプルーブ。旧穀期末在庫は10.01%で予想しております。

司会 ありがとうございます。次に、三井物産の加藤さん、よろしくお願いします。

加藤 弊社は旧穀の期末在庫率は10.2%で置いています。供給サイドと需要サイドにおける飼料需要は据え置きで置いていますが、輸出量は23.7億 buの仕上がりで予測を置いています。エタノールに関しては、54億1,000万 buで予測を置いていることが計算根拠となります。

司会 ありがとうございます。では、豊田通商の藤原さん、お願いします。 藤原 弊社は10.1%で予想を立てています。兼松の高橋さんもおっしゃっ た通り、輸出に関して若干減が見込めるかなと考えているので、6月末の USDAの9.97%から若干上方修正するのではないかという見立てを持ってい ます。

司会 ありがとうございます。最後に双日の長谷川さん、お願いします。

長谷川 弊社としましては、原油高という面と、ガソリン代替としてのE15 が使用規制撤廃ということで、これから夏に入って需要がまだ伸びる余地があるのかなと。

一方で、Feedに関しては飼育頭数減少のデータも出ていましたので、ここでオフセットされるかなというイメージがあります。

あとは輸出の面で、最後に若干の下方修正が入る予想で、結論10.16%でお 願いいたします。

司会 ありがとうございます。さすがに旧穀の在庫率ということで、下は9.6%、上は10.55%と約1%の差はあれど、それなりのところに収斂しているのかなと思います。

旧穀はこれくらいにしまして、新穀に移っていきたいと思います。

2022/23年の新穀の米国産トウモロコシの需給見通しについて、まずは昨晩発表の6月末作付面積報告について、兼松の高橋さん、よろしくお願いします。

●2022/23年米国産トウモロコシ(新穀)の需給見通し

高橋 昨晩発表のUSDAトウモロコシ作付面積は、8,992.1万 acre と発表され、市場事前予想とほぼほぼ一緒、特にサプライズなく市場織込通りといった結果になりました。3月の作付け意向面積8,949万 acre から40万 acre 強増えた形となっていますが、主産地州別で見てみるとまず作付けが遅れ気味となっていたグレートプレーンズ北部、ノースダコタで60万 acre 減、サウスダコタで30万 acre 減となった一方、ミネソタ、アイオワ、ウィスコンシン州で合計90万 acre 増加したことで減少分を打ち消し。その他生産地での増加により全体作付面積は増加した形となりました。とは言ってもトウモロコシに関しては旧穀対比では約340万 acre ほど作付けは減少する予想となっており単収が旧穀レベルであれば供給量は減少する見込みとなります。但し、麦・

大豆・トウモロコシの新穀作付面積合計は約2億2,500万 acre, 旧穀は約2億2,700万 acreですので,全体で約200万 acreの減少となっています。窒素肥料の高騰・インフレ環境でのlandコストの増加はあれど,作付け期における大豆/コーンレシオを考えると先ほど安瀬さんより旧穀の供給サイドにて言及いただいたようにトウモロコシ新穀においても最終作付面積はもう少し増加するのでは。といった印象を受けました。なお,USDAはミネソタ・ノースダコタ・サウスダコタ州において作付面積再調査実施を発表。8月12日公表予定です。

司会 ありがとうございました。新穀の作付面積については、今回は本当にサプライズもなく、ほぼほぼ事前予想の真ん中みたいなところでした。前回3月発表の際は予想外に小さい数字でのサプライズだったと思いますが、一部で作付けの遅れはありましたものの今回は落ちつくべきところに落ちついた感があります。

続きまして,新穀の生育状況と作柄について,三菱の竹内さん,よろしく お願いします。

竹内 現在USDAが予測する177bu/acreという単収は、前年比同等のレベルになっています。但し、これは例年には見られないような早いタイミングで、予想単収が切り下げられているな、という印象を受けています。

足元の作柄については、グッド・エクセレント・レシオは、直近下降傾向ではあるものの、昨年の64対比、3ポイント高い67という状況です。

生育状況については、最近では7月の米国天気予報が出始めたと思いますが、少なくとも7月上旬は恵みの雨が予報されており、また、本日7/1付のニュースでも、天候の改善が見られ、今後も概ね順調に進捗していく見込みです。今年は昨年対比2~3度の高温が見込まれてはいるものの、先ほどのエレメントを早くから織り込み、直近のシカゴ相場は弱含みを見せているという構図です。

また、今年は、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ネブラスカ州の天候が 悪いとされていますが、弊社の子会社であるAgrex Inc社の情報によれば、現 地農家の誇張トークの側面が強く, 想定以上に良好な作柄になるのではないか. という話も聞いています。

以上から、実際に高温な天候がどれほど具現化し、どれほど長期化するかにもよりますが、問題が顕在化しなければ、今の177というUSDA予測から、179~180くらいまで向上するのではと予想しています。

司会 ありがとうございます。現地からの情報は非常に興味深いものです。 作付けの遅れによる懸念にもかかわらずキャッチアップ進み高いG-Eレシオ より、一先ずは安心といったところでしょうか。

単収については毎年右肩上がりとなっており、「いったいどこまでいくのだろう?」とさえ思ってしまいます。ただの予想、根拠なしで結構ですが加藤さん、どれくらいまでいくと思われますか。

加藤 年々これだけの単収の増加を見ていくと、理論的には180~190という単収が出ても全然おかしくないかなと思っています。

弊社も毎年グッド・エクセレント割合から単収の予測を出すモデルをつくっているのですが、今年に関しては、まだグッド・エクセレントのデータがあまり揃っていないので、現状は177で置いてはいるのですが、個人的にはより高い単収が出ても何ら不思議ではないと思っています。

司会 なるほど。そうですね。もちろん地理的な制約等はあるものの、小麦とトウモロコシの単収差がこれだけ大きく離れ実際に小麦の作付面積が低下傾向になっている現状を踏まえると、今後のアメリカの小麦の供給は大丈夫だろうか、違う心配が出てきてしまいます。ともあれこの技術進歩はどこまでいくのかなと非常に興味深いです。

次に、単収・生産量予想について、加藤さん、お願いします。

加藤 単収に関しては、先ほどと被りますが、6月のUSDAの発表では177bu/acreと置かれており、この数値に関しては、もう少し生育が進んでからより精緻に分析していく必要があるとは思いますが、総じて現状では昨年通り、歴史的に言えば、極めて高い水準で置かれているなと見ています。

生産量に関しては、昨年の生産面積が93.4であったのに対して、昨日は89.9

ということで、昨年との比較で言うと生産量の減少が予測されているわけで すが、この要因は大きく2つあると見ています。

一つは、大豆への作付けのシフトが一部地域で起きていることです。これは肥料コストの大幅な増加が関係していると思います。もう一つは、主にアメリカの南部で見られていることですが、今年はコットンの作付面積が非常に増加しています。ウイグル自治区での違法労働の問題が背景として横たわっていると思いますが、その影響で、今年は南部でコットンの面積が10%以上増加しています。

以上、これらが昨年からのトウモロコシの減少でいうと大きいかなと思っています。

また、個別の州に触れると、ノースダコタは州、前年の作付面積から約26%減少しており、現状はこれが今年一番の懸念事項かと思います。今後、PNWからの輸出には相当な向かい風になるだろうと思いますので、警戒して見ております。

司会 ありがとうございます。先ほどは小麦との切り替えの話がありましたが、おっしゃる通りで大豆あるいは綿花との作付けの競争もあります。まさかウイグルの話がここに出てくるとは、穀物は本当に様々な要因が絡んでいると改めて実感します。

続きまして、新穀のトウモロコシの需要全般について、伊藤忠の安瀬さん、 よろしくお願いします。

●新穀の需要見通し

安瀬 まず飼料需要からですが、現状飼養頭数の減少を加味すると、およそ54億~55億 buの間のレベルになるのではないかと想定しており、間をとって54億5,000万 buで仮置きしております。

飼養頭数として、豚が2.3%、牛が2%、ブロイラーが3.6%前年比で減っており、仮に3%減をアベレージとして昨年の水準に0.97を掛ければ、およそこのレベルになっていくかなと考えています。

-75 -

エタノール需要に関しては、E15の政策が続く・続かないでかなり分かれてくるとは思いますが、今の足元の状況から続くと仮定すると、上方修正される可能性はあると考え、これは54億buで置いています。

輸出は意見がかなり分かれてくるところだと思いますが、間違いなく今年よりは減ると仮定して、ブラジル産が順調に出ていることと、ウクライナでは生産自体は15%減ほどでできていることを加味すると、ここは無難で恐縮ながら、USDAと同じ24億buで仮置きしています。ウクライナ状況の継続次第で増えてくる可能性は多分にあるとは思いますが、無事終わることへの祈りも込めて、24億bu据え置きと予想させていただければと思います。

司会 ありがとうございます。先ほどの話にもありましたが、E10、E15の 政策と輸出及びウクライナの情勢がおっしゃるとおり鍵になっていくものと 思われます

中国のブラジルトウモロコシ輸入の話についても実務的な調整には時間は しばらくかかるかもしれませんが一度開始されれば米国のトウモロコシ輸出 にとっては大きなインパクトを与えるファクターであることは間違いないで すね。

それでは、新穀、米国産トウモロコシの最後になりますが、期末在庫率の 見通しについて、皆さんにお伺いしたいと思います。

最初は、兼松の高橋さんからお願いします。

●新穀の期末在庫見通し

高橋 まず供給サイドにおいては、先ほど申し上げた通り3州で再度実地調査になっていますし、作付面積はまだ上昇する余地があると見ており、9,060万 acreまではインプルーブしているのではないかと予想しています。単収に関してはここからの天候次第、今のところ主産地ではHot&Dry予報ながら、足元の天候改善によりトレンドイールドを維持し178bu/acreの単収はキープ、供給サイドに関してはやや楽観的に予想しております。需要サイドに関してエタノール需要は一旦据え置きの一方。飼料需要を54億 bu、輸出需要は

— 76 —

ウクライナ情勢を踏まえ、結局米国産に需要が集中。輸出需要は現時点 USDAプロジェクションから1億bu 増加し25億bu。結果、期末在庫は14億 9,000万bu、在庫率は10.12%で見ています。

司会ありがとうございます。

続きまして、豊通、藤原さん、お願いします。

藤原 弊社の新穀期末在庫率の予想は9.3%です。供給サイドは、USDAと変化なし、一方、需要サイドは、エタノールはUSDA比、若干上方修正して54億bu、輸出に関しても、もう少し上方修正されるのではないかという見立てをしていますので、結論、USDA6月発表が9.61%に対して、若干下方修正されるのではないかという見立てをしています。

司会 ありがとうございます。続きまして、三井の加藤さん、お願いします。

加藤 弊社は10.5%の予測で置いています。需要サイドに関しては、現状、USDAの予測数値のままで置いているのですが、生産の作付面積は、シッパー筋の話を総合すると、90.5くらいはあるのではないかということですので、同数値で置いてみました。単収は引き続き177のままで置いて計算しています。

司会 ありがとうございます。次、三菱の竹内さん、お願いします。

竹内 弊社は9.87%と、USDAとさほど変わらない予測を立てています。 供給サイドは、先ほど申し上げました通り、単収を177から3 bu/acre上 方修正し、180と見積もっています。

需要サイドは、伊藤忠の安瀬さんのご説明に同じく、足元の飼養頭数と昨年度のUSDA需要を鑑みて、飼料需要を54億5,000万 bu。また、エタノールに関しても、54億 bu と上方修正しています。米国環境保護局が先日、国内の製油所に対してバイオ燃料のガソリン・ディーゼルへの22年度混合目標量を21年度比9.5%増やすことを発表しており、また、E15政策などへの期待感も踏まえると、54億 bu まではほぼ確実に到達するものと考えました。

また、輸出に関しても、仮説の仮説から立てた数値ではありますが、USDA 対比で 1 億7,500万 buの上方修正をし、25億7,500万 buとしました。足元、中 国がウクライナから買い付けている数量を900万トン程度と見積もっていまして、ウクライナ国内における穀物滞留の問題が中長期化するとした場合、この900万トンを代替産地で補填する必要があります。中国の伯国買付解禁が実際に起こったとしても、数十万トン程度の規模になると予想しているので、大半は米国が吸収するものと考えています。但し、ウクライナの穀物滞留が23年度以降も継続することは考え難いので、900万トンの半分である450万トンを中国は米国産で補填するという前提のもと、1億7,500万 bu 増の、25億7.500万 bu と仮説しました。

一方で、中国でもGMOの研究開発がなされ始め、同国の単収が急激に増加する可能性なども秘めていますので、改めてですが、仮説の仮説とさせていただきました。

司会 ありがとうございます。次に、丸紅の大垣さん、お願いします。

大垣 弊社は、最終的に9.5%に落ちつくのではないかという見通しでいます。要因としては、まず単収に関しては178~179bu/acreの微増を予想しています。新穀については播種のタイミングで多雨という天候不順に見舞われたものの、最終的に作付けもキャッチアップし、その後は一部エリアにおいて高温乾燥傾向となっているものの全体的に良好な天候で推移しており、受粉ステージも順調にいくものと思われますので、このペースが崩れない限り単収アップにつながっていくのではないかと予想しています。

需要面では、皆様が既に言及されている通り、エタノールに関して多少の上方修正が入ると思っています。中東諸国が原油増産に対して難色を示していることで原油価格が高止まりしていることや、また直近ですと先般のG7サミットでロシアの石油輸出価格に上限を設定することを検討する報などもあり、引き続き石油に代わる燃料需要は高まっていくと考えます。

また、引き続き注目は輸出だと思っています。ウクライナ問題は収束が見えない中、中国の需要が米国に集中していくのではないかと。もちろんブラジル 産解禁の話もありますので、これが現実となれば、また様相が異なってきますが、ちょっと時期尚早かなということで、ここは織り込んでおらずです。

- 78 -

中国のトウモロコシ輸入量予想が現状18百万トンでコロナの状況次第ながら、直近大幅に減っている中国国内備蓄の積み増しなどの動きも期待できるとすると、上方修正の可能性も考えられます。総括しますと単収微増ながら、それ以上に輸出、エタノール需要増で需給はUSDA対比若干タイトになると予想して9.5%です。

司会 ありがとうございます。では、双日、長谷川さん、お願いします。 長谷川 弊社として一番大きく変動を見込むのは作付面積です。大豆への 切り替えが依然続くのかなという点と、肥料の高騰から費用対効果の面でも トウモロコシは歩留まりが悪いので、売りにくい状況になっていくのかなと。 ただし、この調査段階は6月1日時点のもので、8月のWASDEで改めて 作付面積が発表される機会があるので、そこでかなり上方修正されるのかな と見ています。昨年のレポートでも、6月の発表値から230万 acre 上方修正 されています。

ということで、まず作付面積に関しては300万 acre 増やしています。

イールドに関しては、去年と同じ177で置いています。基本的に今年もよさそうという話ではあるのですが、例年の様子を見ると、結局ハリケーンや自然災害で落ちつくところもあって、それを考えると、全く予想がつかないところではあるのですが、プラスもマイナスも言いにくいのかなという印象です。

デマンドの側面では今後の原油高を踏まえたエタノール需要の若干の拡大と北米の景気後退による畜肉需要の減少の結果,着地は9.78%に置かせてもらっています。

司会 ありがとうございます。では、伊藤忠の安瀬さん、お願いします。 安瀬 皆さんとちょっと乖離があって恐縮ですが、弊社は8.5%で予想しています。旧穀の期末在庫率を9.6%と予想しており、そこに先ほど申し上げた飼料需要、輸出、エタノールを加味していくと8.5%となり、その詳細に関しては、先ほどお話しさせていただきましたので、この場では割愛させていただきます。

司会 ありがとうございます。まだまだ新穀がどうなるかわからないところで、幅としては、伊藤忠さんの8.5%から三井さんの10.5%まで2%くらいの差はあります。実際はもっと上か下かもわからないのですが、皆さんのお話をまとめると、やはりこれまで話題に上がった輸出、ウクライナ、中国次第という見方が大勢かと理解しました。

次は、他産地トウモロコシの動向について、丸紅の大垣さん、よろしくお 願いします。

●他産地トウモロコシの動向

大垣 他産地トウモロコシの足元の動向について,主要産地ごとにお話し させていただきます。

まず輸出シーズンであるブラジルトウモロコシについては、サフリーニャの収穫は今のところ全土で約2割強、22%と、非常に順調に来ています。主要生産州であるマッドグロッソに関しても4割強と非常に順調です。

一方で、農家売りは昨対比少し遅れてはいるものの4割くらい、昨年同期で6割くらい。ただ、徐々にキャッチアップしています。

作柄に関しては、G/Eレシオが全体としては82%強と、これも昨年対比非常にいいです。天候に関しては、ラニーニャ傾向ではありますので7-8月はやや乾燥する見込みで、成長段階に於けるホット&ドライはあまり好ましくないですが、既に収穫段階に突入しておりますので、今のところ大きな懸念はないと見ています。

ついでに船のラインナップも触れておきますと、北部港に加えてパラナグア、サントスの主要輸出港でもトウモロコシの本船が徐々に並び始めていますが、大きな乱れはなさそうということで、ロジ面に関しても大きな懸念は現状見られておりません。総じて順調ということになると思います。同じ南米のアルゼンチンも収穫進捗42%と非常に順調に来ています。

北米については足下ブラジルシーズンなので、引き続き静か。新穀は今の ところガルフで11月以降かなと思いますが、10-12月のポジションは例年大



座談会風景

豆メインですし, 価格面では南米が好調となれば, 競争力が出辛い状況が続きそうです。

極東ロシア、黒海、輸出動向は、引き続きウオッチしていく必要はあると思います。一つトピックとして、5月、60万トンほど小船で近隣諸国に輸出しているという話もあって、引き続き動向は追っていかないといけないのかなと。ウクライナトウモロコシですが作付けは予想に反して順調に進んでいる様ですが、収穫まで無事に進むかどうか依然として不透明な状況かつ、複数の穀物ターミナルが爆撃被害にあっており物理的に輸出が出来るのか、という問題もありますので今期の10-12月に関しては、新穀の輸出はほぼ不可能ではないかと思います。

司会 ありがとうございます。他産地については、過去の座談会を見ても、「ウクライナは値段的に競争力もあって」という意見がありましたが、その環境が全く変わってしまったという意味では、日本にとっても産地の選択肢が現状減っています。

アルゼンチンの低ドラフトや直近で言えば、小規模ではありましたがストライキ。南アフリカでの洪水など、世界各地で様々な事象が発生しますので今後も他産地化で選択肢を持ち続ける必要性を感じるところです。いずれにしても、今のところ南米については順調ということで、そこは安心材料かと

思います。

続きまして, 主原料代替原料, マイロ等の動向について, 豊田通商の藤原 さん, よろしくお願いします。

●主原料代替原料の動向

藤原 私からは、主原料代替原料ということで、マイロや飼料米について ご報告させていただきます。

まずマイロに関して需給を申し上げます。2020/21年度クロップの米国の期末在庫率は約5.2%,世界は6.4%でした。旧穀である21/22年度クロップでは、米国の期末在庫率が7.5%,世界は6.4%,新穀期末在庫率予想は、米国が6.2%,世界も6.2%となっています。

貿易需給でいきますと、全世界的に約1,100万トン輸出されています。そのうち米国産が66%の730万トン、アルゼンチン産が約20%の230万トン、オーストラリア産が約10%の110万トンとなっています。

輸入に関しては、トータルは輸出と同じ1,100万トンで計算されていて、そのうち中国の輸入量が950万トン、これは1,100万トンに対して86%となっています。これからわかる通り、ほとんど中国が輸入しているので、中国次第でいかようにでもなるという商材になっています。

他方、日本は、年間約20万トン強の輸入量で、これは全体の約2%を占めています。皆さんご存じの通り、日本での国内使用量は年々減少してきていますので、調達・供給がこれからも難しくなっていくのではないかという予想を立てています。

特に産地で言えば、アルゼンチンは、先ほどの他産地トウモロコシ動向でもありましたように、ストライキによる契約履行の面で不安が残りますし、オーストラリアに関しても、4月、5月は洪水等々で国内物流が混乱して、玉が積港に集まらず、積荷役や出港が出来ない問題もありましたので、今後も厳しい供給が課せられるのではないかと見ております。

話変わりまして、飼料米に関して、結論から申し上げますと、生産量はそ

んなに伸びないのではないかという見立てです。令和3年度の作付面積実績は約62万トンでしたが、国が示している令和12年目標は70万トンになっています。約8年間で8万トンですので、年間約1万トン強の増加率となろうかと思います。

生産量自体はあまり伸びないのではないかと申し上げましたが、70万トンというのはあくまでも国が示している目標値でありまして、現状の足元の状況は、需要面で言えば、食用米の増加が見込まれています。これはインバウンド需要です。

一方, 生産面では, 今年は梅雨明けが例年比3週間早かったり, 雨が非常に少ない影響による減産懸念や品質懸念が出てくる可能性ありますので, 供給過多になる展開は想像し難いのではないかと考えております。

司会 ありがとうございます。元々はトウモロコシの安い代替という位置づけがあったマイロについて、今やそういった面影はなくなりニッチな商材となってしまいました。加えて国産飼料米への代替の動きから、さらに需要が減ることで藤原さんのおっしゃる通り、各社の調達が難しくなっているのではないかと思うところです。

続きまして、FOBプレミアム動向について、丸紅の大垣さん、よろしくお願いします。

●FOBプレミアム及び海上運賃の動向

大垣 FOBのプレミアム動向について、弊社からご説明いたします。今はブラジルシーズンですので、メインのブラジル産トウモロコシについてお話しします。直近半年ですと、言わずもがなウクライナ。これが勃発したタイミングでマーケットは急騰しました。世界中が混乱する中、穀物相場は高値推移を続け、5月のゴールデンウイーク以降にはインドによる小麦の禁輸に始まり、中国によるブラジル産トウモロコシ解禁の報などを受けて、相場は底堅く推移してきました。そんなパニック相場もピーク時に比べれば多少落ちつきを取り戻したものの、昨晩のUSDA四半期末在庫報告を受けて、シカ

- 83 -

ゴ定期が下げたことによりブラジル農家売りがまた鈍化,ベーシスの上げに繋がっています。前述の通り,ブラジル農家売りは昨年対比ややビハインドしており,最終的にはキャッチアップするのですが,少し先になるのではないか,と。直近の軟調なシカゴ相場に鑑みると短期的にはブラジル産トウモロコシの下げ余地は限定的と見ています。

司会 ありがとうございます。今期ブラジルシーズンは、本当にボラティリティが高い動きが多かったと思います。まだまだ中国やウクライナの影響も無視できないため引き続き皆さん苦労されながらトレードされていくことになると思います。

続きまして、海上運賃動向について、三菱の竹内さん、よろしくお願いい たします。

竹内 まず,直近6カ月は,総じて堅調に推移しましたが,足元は軟調傾向となりました。

昨年12月から2月にかけては、北大西洋の貨物需要が低調であったことや、 旧正月、あと冬季オリンピックに向けた環境対策等の影響で、中国向けの貨 物需要が低調であったことによって軟調に推移しました。

2月下旬から3月中旬にかけては、特に中国向けインドネシア炭の旺盛な 需要によってマーケットが牽引されました。また、ウクライナ情勢によって、 欧州・黒海勢が、北米や豪州などの代替産地からの輸送を増やしたことでト ンマイルが増加し需給がタイト化したことも、マーケットを下支えしたかと 思います。

3月中旬から4月初旬は、中国向けの石炭需要が低調に推移したために下落基調となりました。

4月中旬から5月下旬は、南米積みの穀物、あとはインド向けの石炭需要がマーケットを牽引し、上昇基調になったのではないかと思っています。同タイミングで、中国ではロックダウンが行われたので、中国向けの貨物需要は低調に推移したものの、5月後半からは原油価格の高騰に伴ってバンカー価格が高騰したために、運賃を押し上げる要素になったかと思います。

— 84 —

足元の6月ですが、特に北大西洋の貨物需要と北大西洋の需要が乏しく、下落基調に転じました。南米積みの穀物やインド向けインドネシア炭は堅調だったのですが、それを上回る水準の船腹供給があったことで、軟調に推移しています。

短中期的な話を申し上げますが、結論から言うと、直近6カ月と同じく、ボラタイルな値動きをしつつも、基本路線は堅調に推移するものと考えています。伯国からのトウモロコシ輸出の本格化や、EUのロシア炭禁輸によるトレードフローの変化などによって、トンマイルが増加することでマーケットが下支えされるのではないかと。一方で、一般炭の最大の輸入国である中国が国内生産を増やしており、また、ロシア炭を輸入していることから、中国向けインドネシア炭の貨物需要がマーケットを牽引するシナリオを今や考え難いかとも思っています。さらに、世界経済の減速によって、鉄鉱石・石炭・穀物の海上荷動きが減少し、マーケットが軟調に転じるというシナリオにも注視は必要かと思います。

また、長期的にも、輸送量増加率が船腹増加率を上回ることが想定されていますので、堅調に推移するものと捉えています。記憶が曖昧ですが、たしか2023年1月からはEEXIの環境規制導入が始まるので、効率的なエネルギー消費が求められることで減速航海が増え、船腹の稼働率が低下することで、船腹供給が減少。然るべくして、マーケットが堅調に推移すると見ています。

司会 ありがとうございます。竹内さんがおっしゃったように、ウクライナ侵攻の影響で各種貨物のトンマイルの増加とバンカー高騰がもたらした傭船市場の高値圏は足元は軟調とは言いながらも維持されています。振り返ると太平洋航路あるいは大西洋-太平洋間でのフロントホール、バックホールでの価格の逆転現象が起こるなどこれまでの常識では対応できないケースが見られました。昨今の相場高からバルカーの新造船を発注したいと思っても、大型のコンテナ船にドックを押さえられ発注できないという話も聞きます。堅調な推移は今後も続くという見立ては納得です。

続きましてシカゴ定期の価格見通しについて、2022年9月末時点の2022年

12月限と2023年3月限の予想を皆さんにいただきたいと思います。 まずトップバッターとして伊藤忠の安瀬さん、よろしくお願いします。

● 9 月末時点でのシカゴ定期相場価格(12月限及び3月限)見通し

安瀬 12月限は575, 3月限は570で予測しています。2011年からの期末在 庫率とシカゴの相関に当てはめると575となり、この在庫率ですとインバース になっていくのではないかと予想しております。相関に関して、全体的な相 場の目線も上がっていると思って年数をいろいろいじってみたのですが、相 関が最も高かった2011年からを使用しております。

司会 ありがとうございます。続きまして、双日の長谷川さん、お願いします。

長谷川 弊社は、それぞれ550と540で置かせてもらっています。1つは、ウクライナの港が開放されるということで、世界的な供給量が増えることを見込むのと、米中産地のコーンの作柄が好調ということで、ある程度下げのトレンドはつくっていけるのではないかということで、この数字にしています。

司会 ありがとうございます。それでは、豊田通商の藤原さん、よろしくお願いします。

藤原 結論から申し上げますと、予想は12月限が525、3月限が535となっています。弊社の新穀の在庫率の予想は9.3%で、昨年に遡ると、昨年6月のUSDAの21/22年度クロップが9.1%の期末在庫率、9月10日の同クロップ期末在庫率が9.5%でしたので、弊社の新穀在庫率予想と大方相違ないレベルになっていて、昨年9月末の価格が530付近でしたので、この辺に落ちつくのではないかと考えています。

先ほど安瀬さんがおっしゃられたように、弊社も過去10年間ほどの期末在 庫率と相関を同じようにやりました結果、9.3%くらいの期末在庫率だと、こ のくらいの値位置になると考えますので、12月限525、3月限535と述べさせ ていただきました。

皆さんとは違い、10セントキャリーにした理由は、現状12月限と3月限だ

と7セントほどのキャリーになっていますが、先物ですので、先のことが織り込まれているかなと思い、通常通り、ここに関しては金利、保管料等々のコストが乗ってくる分、キャリーに転じているのではないかと思いましたので、ここは10セントのキャリーとさせていただいています。

司会 ありがとうございます。続きまして、三菱の竹内さん、よろしくお願いします。

竹内 弊社予測は、12月限が550、3月限が556です。予測過程は皆さんと同じく、直近10年間の期末在庫率とシカゴ相場の相関曲線を作成し、弊社が予測する期末在庫率9.87%を当て嵌めました。その結果、500くらいとなりましたが、これに加えて、歴史的にも高水準な投機資金の流入と、ウクライナのリスクプレミアムによる影響などを50ほど考慮させていただきました。なお、3月限をキャリー6にしたのは、足元のキャリー水準が引続き継続すると考えたものです。

司会 ありがとうございます。三井の加藤さん、よろしくお願いします。 加藤 12月限600、3月限610で個人的に予測します。先物の予測は一番嫌いで、正直あまりやりたくないのです(笑)。12月限は新穀の最初の限月ということになりますが、需給環境を総合的に踏まえると、インバースになることはないのかなと思います。足元は既に6セントキャリーがついており、もう少しキャリーが広がるというシナリオのほうが想定しやすいのかなと思いますので、このように置いています。

司会 ありがとうございます。続きまして、丸紅の大垣さん、よろしくお 願いします。

大垣 私個人的な予測になりますが、12月限は580、3月限は585で予想しています。大方皆さんのご説明と重なる部分はあるのですが、コーンベルト地域における天候予想に懸念なく、上値は重いですよね、というところは、これからどんどんリアライズされていくのかなと。

唯一,長期トレンドの転換の目安となるので私がよく見ているのは,200日間の移動平均線で,これが今610とかですが,これを下回れば,下降トレンド

は結構確固たるものになっていくのかなということで、今の値位置から40セントくらい下を見てこの値位置かなというところですね。

司会 ありがとうございます。最後に兼松の高橋さん、よろしくお願いします。

高橋 12月限570,3月限576を予想しています。テクニカル視点ではウクライナ侵攻から形成されている上昇波を下抜け、下方レンジに向かっていくのではないかという予想です。

司会 ありがとうございます。12月限で言えば、下は豊通の525、上は三井 さんの600ということで、いずれにしても、現時点よりも下値での予想となっ ています。

今見えている在庫率などを踏まえれば、皆さんのベクトルはある程度近し いところに来るのかなと思いました。結果を楽しみに待ちましょう。

通常のJFTAの座談会のトピックについては、これで一通りお話が終わりました。今回どうしても避けられないというか、あまりにも我々の業務にも影響の大きかった2月のロシアのウクライナ侵攻について、どういった部分が我々の商売の中で大変だったのかを振り返りながら互いを慰労しつつ、今後を見通せればと思います。

話し始めはなかなか難しいとは思いますが、せっかく弊社が司会をやっていますので、藤原さん、発生直後のインパクトはどんなものでしたか。

●ロシアのウクライナ侵攻の影響と今後の見通し

藤原 発生直後は、先ほど司会も説明された通り、サプライヤーに問い合わせても、ノーオファーといった期間が結構あり、そこで買えない・供給できないといったリスクが現実味を帯びましたから、目先真っ暗という状況になりました。

実際にオファーが出てきたときも、今まで見たことないくらいの値上げで したので、「本当にこれを買っていいのか?」、「でも、買わなかったら、この オファーがなくなるのではないか」というジレンマが非常にあり、担当だけ では解決できないものですから、上司に相談しましたが、上司も過去に経験がない未曾有の状況でしたので、何をもって判断してよいか、結論は出ませんでした。

時間の経過とともにある程度オファーが出てきて、買付に至りましたが、省 みると、それが果たして正しかったのかというのは正直わからず、反省もで きないので、今後またこういった事象が起きたとしても、対応は非常に難し いと切に感じました。

司会 ありがとうございます。非常に難しい判断に迫られたわけですが、安瀬さん、ご苦労されたことはありましたか。

安瀬 弊社及びもう一社さんがウクライナでの船積みが決まっており、安定供給で苦労したと思われます。2017年、その時は受渡担当だったのですが、PNWからの供給が遮断されてしまい、韓国でAIが起きてなければ、日本の飼料製造はとまっていただろうという時期も含め、常に代替の産地を探しながら、飼料メーカーさんとも連携をとり、複数の産地を使いこなせるように模索を続けて参りたいと思います。ウクライナは蛋白が高めであり、できれば使いこなしたい産地でもあると思われ、今までの原料の目線のみならず、飼料メーカーさんや畜産農家さんとコミュニケーションを取っていければいいなということを痛感したこの数カ月でした。

司会 非常に実感のこもったコメントをありがとうございます。

加藤さん、何か大変なことはありましたか。

加藤 ちょうど戦争が始まったとき、私は事情が有って約1カ月ほど在宅 勤務が続いていました。その最中、家で悶々と相場判断をしながら買付、販売を行うのはとてつもないストレスで、非常にしんどい思いをしたのをよく 覚えています。相場としては、短期的には2月~4月頃は非常に大きな上昇を見て、皆さんも本当に大変だったと思います。

ウクライナからのその当時の輸出残は、1,200万~1,500万トン程度だった と思います。うち、約半分が中国、残りが欧州勢や韓国を中心としたアジア勢 の需要だったと理解しています。この部分に関してはアメリカや今年豊作な 南米で無事吸収ができているのかなと思います。ウクライナに関しても、今年は大勢の予想よりも多く作付けが為されているようで、昨年と比べて20%も減らないのではないかという話を聞いていますので、あくまで戦争次第ではありますが、相場自体は中長期的にはまた落ちつきを戻すのではないかと思っているというか、願っております。

司会ありがとうございます。

振り返った中で、あのときの担当者は皆さん、まさにお先真っ暗というか、「どうしよう?」という状況に追い込まれたのではないかと思いますし、そのご苦労は本当に計り知れないと思います。

ちょっと先に目を向けて、今あるウクライナの在庫はどうするのか。もちろんロシアが人道回廊を開いてくれればといった前提はあるものの、港そのものは破壊尽くされていることを考えたら、今後ウクライナの穀物の輸出本格再開にはどのくらい時間がかかるのでしょうか、また今後ウクライナはどうなっていくと思いますか。非常に曖昧でざっくりしたお話ですが、竹内さんはどう思われますか。

竹内 2月頃にウクライナ侵攻が勃発したとき、私は戦略企画関連の部署 にいたので、皆さんのようなリアリティのあるお話は出来ませんが、少なく とも来年も影響が残るものと見ています。

新穀のウクライナ産作付けについては、加藤さんがおっしゃっている通り、予想に比べて緩和してきているようですが、それでもなお、戦場地域を中心に、20~30%くらいは昨年対比減少するのではないかと見ています。また、もし昨年並みに作付け出来たとしても、生育中に必要となる農薬や、収穫期に必要となる大型機械の燃料価格が高騰しているので、国内の流通が滞る懸念があり、どの程度収穫が出来るのかも不明な状況ですし、それらが収穫できたとしても、国内倉庫に滞留する旧穀を輸出出来ない限り、新穀を保管する倉庫がないような状況なので、2023年度も引続き、ウクライナ侵攻による影響は残存するのではないかと思っています。船で輸出する代替として、貨車による陸上輸送も考えられますが、物理的な輸送キャパシティや貨車の軌条

— 90 —

幅の違いによって、規模は限定的だと想像しますし。

司会 ありがとうございます。確かに農作業を行う人手があるのか、などの物理的な部分での障害も考える必要がありますね。その他に現場でのお話でも、間接的な影響でも構わないのですが、せっかくなので皆さんに少しずつ聞いていきたいと思います。高橋さん、いかがですか。

高橋 苦労したのは皆さんと同様で、一時のパニック相場からは若干落ちついてきたかなといった印象は受けています。但し、現時点のウクライナ情勢から見ると少なくとも1-2カ月といった短期間で状況が一変するような事は考えづらいですし、この様な環境は暫く続く様相と言わざるを得ないと思います。皆さんと少し違った点で、農産物に視点を当てるとウクライナの食肉輸出量は意外とあって、フローズンポートリー輸出量は2020年にはドルベースで世界7位の量を占めており、現地では冷凍倉庫への攻撃など報道されており世界食肉需給動向にも影響を与えています。食肉供給と言った点から見ても各国の飼料原料としてトウモロコシはやはりタイト、キャッシュ下落幅を限定的にしていく材料と最近感じております。

司会 ありがとうございます。食肉供給への影響というのは興味深い視点かと思います。双日の長谷川さん、いかがですか。

長谷川 ウクライナは、小麦が世界需給の中で27.5%の割合を占めているので、かなりインパクトがあったのと、トウモロコシ自体は15%くらいといわれており、相当大変な時期だったなと感じています。

そもそも肥料高が続くなかで、ウクライナの政情不安はさらに肥料高にも 直接つながり、悪循環に陥っている印象がありました。

それのみならず、ウクライナはひまわりの産地になっているので、それが ウクライナから輸出されなくなり、しかもロシアの天然ガスも使わなくなっ たことで、大豆油の争奪戦にもなりました。

本当に穀物だけではなくて、世界的にすべてのコモディティに影響が出てきたなということで、避けようはないのですが、今後の在り方についても考えさせられる時期であったと思います。

- 91 -

司会 ありがとうございます。ご指摘の通り肥料、油など我々の生活にも 直結する部分への影響は多方面に長期的に続く問題ですね。

では、大垣さん、大トリで締めていただければと思います。

大垣 非常に恐縮です。感じたことは大きく2つあります。

1つ目は、改めて穀物相場というのは本当様々な要素が複合的に絡み合っているな、ということ。例えば先物市場では、トウモロコシというより先ず小麦が高騰したことで連れ高となりましたし、ベーシスに関しても、ウクライナ産トウモロコシの代替産地として北米や南米に新規需要が舞い込み、世界中の穀物価格を吊り上げました。

もう1つは、このウクライナ危機が世界の食糧安全保障に及ぼしている影響が計り知れないということです。ウクライナは世界第4位のトウモロコシ輸出国で、小麦では世界7位、大麦は世界5位と、穀物生産国として非常にプレゼンスの高い国であることは間違いありません。日本では徐々に認知されつつあるウクライナ産トウモロコシですが、目を外に向ければ、EUでは輸入トウモロコシをウクライナ産に頼っていた部分が大きいという記事を過去見ましたし、それゆえにEU圏内での飼料価格、畜肉価格は上昇を続けている様です。影響は世界規模だということを日々感じてます。

司会 ありがとうございます。これまで米中の関係悪化が及ぼす世界を考えていたところにいきなりのロシアウクライナ問題が勃発しました。国家間の紛争の種は未だ世界中に存在し、リアルな戦争というものが与える影響を改めて感じるところではありました。

藤原 我々日本はあくまでも間接的な立場ですが、ロシアウクライナ戦争 はまだ継続中で、ウクライナ国内の方々は命の危険もありますので、早急な 戦争終結を心から望んでいます。

司会 ありがとうございます。おっしゃるとおり一日でも早い戦争の終結がIFTAの総意です。

短い時間ではございましたが、非常に良い意見交換ができたと思います。本 日座談会にご参加いただき本当にありがとうございました。

New Balance

< 10 >

岩﨑食料·農業研究所 所長 岩**﨑** 正典



「典型的な春高型になった今年のトウモロコシ相場」

――ウクライナ戦争に春の天候不順が重なり,4月に約定高値を更新――

1. 思い掛けない3月末の米国農務省の需給統計と農家作付け意向面積

3月末に、新穀トウモロコシは約定高値を更新したが、旧穀は小麦や大豆の急落にツレ安となった。この急激な価格変動をもたらした要因は、米国農務省の需給統計であった。

四半期在庫統計は、事前予想に近い数字で発表されたが、新穀の作付け意向面積は、大豆面積が前年比4%増加の91.0百万エーカーに対して、トウモロコシは4%減少の89.5百万エーカーとなった。3月前半の農家へのアンケート時点では、肥料やエネルギー価格の高騰が農家には最大の懸念材料になった上に、ブラジル産の作柄が下方修正される可能性や、黒海地域からのヒマワリ油の供給減退による植物油の供給不足に、米国農家が大豆の増産で応えた。

- 3月31日に発表された米国農務省の統計資料は次の通り。
- ① 3月1日時点の四半期在庫報告(単位は、100万ブッシェル) トウモロコシ 今回7,850 市場予想7,877 前年同期7,696 12月在庫11,647 農場在庫は4,080百万ブッシェル、農場外在庫は3,770百万ブッシェルと、それぞれ前年同期より微増であった。12-2月期の消費推定は3,791,3百万ブッ

シェルで、前年同期の3,603百万ブッシェルを上回って、エタノール及び飼料用途での消費増加と推察された。

大 豆 今回1.931 市場予想1.902 前年同期1.562 12月在庫 3.149

農場在庫は750百万ブッシェル,農場外在庫は1,186百万ブッシェルと,前年同期を2割以上も上回った。12-2月期の消費推定は1,220百万ブッシェルで,前年同期の1,388百万ブッシェルを12.1%下回り,専ら輸出需要の減退と推察された。

② 2022年産の農家作付け意向面積(単位は、100万エーカー)
 トウモロコシ 今回89.5 市場予想92.0 前年度93.4 観測会議92.0
 大 豆 今回91.0 市場予想88.7 前年度87.2 観測会議88.0
 全小麦 今回47.4 市場予想47.7 前年度46.7 観測会議48.0

今回の作付け意向面積の発表は、中西部の農家が体験してきた、肥料をは じめとする投入コストの上昇が厳しいことが再認識された。窒素系肥料が大 量に必要なトウモロコシの栽培が手控えられ、大豆の増産を選択することは 当然視された。

前年度実績及び市場予想を下回ったトウモロコシの播種面積は,2018年の88.9百万エーカー以来の低水準になったので,今年の生育期間は理想的な天候推移が必要になった。農家の作付意欲が低かった生産州は,昨年の大干ばつに見舞われたノースダコタやミネソタを始め,中西部のほぼ全域に広まっており、投入コスト高が反映されたと言える。

大豆は史上最高の91.0百万エーカーと発表され、市場の事前予想を2.2百万エーカー上回った。昨年の干ばつが酷かったノースダコタで減少するものの、イリノイをはじめ多くの主産地で過去最高が予定されている。

2. インフレ基調の中で、今年の天候相場が始まった

4月4日に 今シーズン最初の週間作況作柄進捗報告が発表され、冬小麦の作況評価が予想を大幅に下回ったことが小麦の強材料になった。トウモロコシは新穀の作付面積の減少予測に、中国が素早く反応して買い付けに動いた。 大豆はヒマワリ油を始め植物油の需給逼迫が支援材料になって反転上昇に転じた。

米国農務省の4月度需給報告は、概ね市場の予想通りであったが、FAOの食料価格指数が前年比33.6%の上昇で、過去最高を更新と発表されたことで、大手投機筋の買い増しを誘い、中国上海でロックダウンの長期化が懸念されると、メディアが食料を始めとするあらゆる商品の供給不安を煽った。

4月8日に発表された、米国農務省の4月度需給報告は次の通り。

① 米国需給見通し (単位:100万ブッシェル)

米国の期末在庫予測

	今月	市場予測	3月予測	前年度
トウモロコシ	1,440	1,415	1,440	1,265
小 麦	678	656	653	845
大 豆	260	262	285	257

3月末の四半期在庫調査で示された,足元の消費動向に沿った修正が行われた。トウモロコシは、飼料用途が25百万ブッシェル削減になったが,エタノール用途が25百万ブッシェル増の5,375百万ブッシェルとで相殺された。エタノール用途は、EIA週報に準じた引き上げになったが、輸出需要が据え置かれたので、期末在庫の変動はなかった。対消費在庫率は9.6%と低水準にとどまったことから、農家価格見通しが15セント引き上げられ580セントに上向き改訂された。(前年度は453セント)

② 国際需給見通し

世界の期末在庫予測(単位:100万トン)

	今月予測	市場予測	前月予測	前年度
トウモロコシ	305.44	300.91	300.97	291.45
小 麦	278.42	281.41	281.51	290.27
大 豆	89.58	88.79	89.96	101.74

トウモロコシの生産量は前年実績より8,457万トンの増産が見込まれ、今月は12億1,045万トンに431万トンの引き上げがあった。ブラジルの作柄見通しが200万トン多い1億1,600万トンに上向き改訂され、前年度から2,900万トンもの作柄挽回が見込まれた。アルゼンチンは前月同様に5,300万トンで様子見になったが、欧州の作柄が70万トン、インドネシアが70万トン引き上げられた。需要側では、中国の消費見通しが300万トン引き下げられたことで、中国の輸入見通しも2,300万トンと前年実績の2,961万トンから大幅な減退見込みに改訂された。作柄が良かったことと、養豚業の不振が要因と推察されるが、期末在庫は前年比500万トン増の2億1,024万トンで変わりなかった。

市場の注目するウクライナからの輸出見通しは前月より450万トン少ない, 2,300万トンと前年度の2,386万トンから微減になった。今年度は4,190万トンの大豊作であったので(前年実績は3,030万トン),2月予測(ロシア侵攻前の段階)では3,350万トンの輸出が見込まれていたが、ロシアの侵攻により1,050万トンの輸出が出来なくなったとの推察であった。ブラジルからの輸出は100万トン多い4,450万トンと、前年度の2,102万トンから倍増以上になると見込まれることで、ウクライナから出荷出来なくなった分が一部相殺される見通しになった。

4月中旬は、米国穀倉地帯が北部で大雪、南部で活発な雷雨が予報される 等、春の農作業が停滞しそうな天気予報が支援材料に加わった。シカゴの先 物価格は、ロシアによるウクライナへの侵攻を境目に新たな値動き圏が形成 されたが、世界の需給バランスは新穀年度に向かっての現物供給に余裕は乏 しいが、米国ドル高の下で歴史的な価格水準が、世界各地の農家に増産を促すには充分とも思われた。しかしながら、プーチン・ショックがもたらした肥料の供給問題が、大平原の天候ともども新たな不安材料に浮上した。トウモロコシは播種の遅れを材料にほぼ連日で新穀が約定高値を更新し、中国がウクライナ産の代替で米国産の大量買い付けを始めたことが好感され、旧穀も続伸となった。

3. 新穀トウモロコシが約定高値を更新

農家の作付け意向面積が、前年実績や市場予想を下回ったことや輸出市場でウクライナ産の振替需要が浮上したことから、新穀限月は一段高となった。ウクライナからの供給が中断したことに警戒感を強めた中国が、新穀と旧穀を合わせて100万トン単位の買い付けを行い、国際需給の逼迫化懸念を広めた。旧穀は8ドルの大台が視野に入り、安価な飼料用小麦の供給元であるウクライナからの供給が止まった上、北米大陸は昨年の大減産により小麦の供給余力も失われた状況であった。そうした状況下で、バイデン政権が大気浄化法の規制を無視して、今年の夏場にE-15(ガソリンに混入するエタノールを15%まで容認)の使用を、緊急事態権限を行使して承認した。実際のトウモロコシ消費量に換算すると、微々たる数量と推察されるが、心理的な効果は無視出来なかった。トウモロコシの騰勢は、当然のことながら、耕作面積の争いが続く大豆への支援材料にもなった。

米国穀倉地帯の西側は高温乾燥,東側は低温多雨,と両極端な天気が定着し,穀物市場は新穀の作柄不安や春の農作業の停滞が支援材料になって上値余地が試された。トウモロコシは,播種作業の遅延による新穀の高値は750セント強で一服したが,中国が米国産の大量買い付けを継続したことで,旧穀は小幅続伸で終わった。世界銀行などの国際機関は,ロシアのウクライナ侵攻により,世界の穀物流通(今年度)と生産(新穀年度)が大打撃を受けたと言うが、ウクライナからの供給量が比較的多いトウモロコシが、最も大き

— 97 —

な影響を受けている。旧穀と新穀との逆鞘幅が64.50セントに拡大したことで、市場の関心が新穀の播種作業の遅れよりも、旧穀の需給引き締まりにあると推察され、大豆も182.75セントの大幅な逆鞘体系を維持した。

4. トウモロコシの作付遅延や小麦の減産懸念で天候相場の様相を強める

トウモロコシは農家作付け意向面積が、前年実績から4%の減少見通しであったので、今年は是非とも理想的な生育環境を保って、農業観測会議で示された181.0ブッシェルという挑戦的な傾向値単収の実現が必達とされた。ところが、播種作業の進捗が2013年以降で最も遅れた上に、ミシシッピ川の東側や五大湖周辺に、低温多雨型の天気が持続するとの予報も流れた。反対にミシシッピ川の西側では、ロッキー山脈に近づくにつれて、土壌水分の不足が著しくなる傾向を強めた。5月限の現物受渡しの開始を控えて、テクニカルに手仕舞いが起こりやすい環境下にあったが、4月末を控えて旧穀は8ドル台に戻り、新穀も7ドル台半ばに買い進まれた。天候相場が始まり、ウクライナからのトウモロコシ輸出が中断したことや、重要な生育期を迎えたブラジル2期作トウモロコシ産地での高温乾燥がトウモロコシ市場の話題になった。中国が大量の買い付けを継続したことで、過去最高の価格水準であっても需要が後退せず、これが強力な支援材料になった。

4月末に付けた824.50セントの約定高値の更新後,天気予報が中西部で高温乾燥型への移行を示唆したことで,トウモロコシの播種作業が進展するとの判断から利益の確定売りが始まった。実際の播種作業の進捗率は4月末時点でわずか14%と平年の33%から大きく出遅れ,輸出市場では中国がウクライナ産の代替を米国産に求めて,4月を通じて453.9万トン(旧穀受渡で256.7万トン,新穀で197.2万トン)の買い付けを行った。

米国では播種作業の進展に不安があるが、重要な生育期間を迎えたブラジル中西部の主産地でも、過去十数年間で最も乾燥した4月の天気になり、土壌水分の不足が報じられると、南米産穀物予想の専門家が作柄見通しを下方

- 98 **-**

修正した。ウクライナ産飼料穀物の供給に期待ができない中、小麦が世界各地の作柄不安から11ドル台に戻ったことも有り、トウモロコシも小麦に連れ高と思われた。しかし、トウモロコシは中西部の天気が回復に向かうとの予報が流れると、心理的な8ドルの節目やテクニカルな支持線(20日移動平均線の793.50セント)も割り込んだ。米国農務省から新穀年度の需給予測の発表を控えて、天気回復を期待した持高調整と利益確定が広まった。

5. 慎重なトウモロコシの単収予測に驚かされた5月度の需給報告

米国農務省の新穀年度の作柄見通しと、大減産になったトウモロコシや小麦が先導して、シカゴ定期が反発に転じた。トウモロコシは、中西部に好天が戻り播種作業が進展を見せたが、播種の著しい遅れを勘案して、米国農務省が新穀の単収見通しを傾向値単収の181ブッシェルではなく、昨年並みの177ブッシェルという慎重な予測にしたことで、需給の引き締まり懸念から新穀が約定高値を更新する一方、旧穀は現物需給の引き締まりから下げ渋った。大豆は新穀年度の需給に安心感が示されたが、旧穀需給が引き締まり、大豆ミールは400ドル割れから反転した。

トウモロコシの播種 は22%の完了で、平年の50%の半分にも満たなかった。 大豆の播種は12%の完了で、平年の24%の半分となり、土壌温度の上昇が遅れたことで播種の出遅れが顕著であった。こうした農作業の進捗状況で、何処まで正しく新穀年度の作柄予測が可能なのか、大いに疑問視された。天候相場期の需給予測だけに、驚きのない米国農務省の需給予測はないとのジンクス通り、今回も新穀のトウモロコシと小麦の作柄予測が、市場の事前予想を大幅に下回ったことで、天気の好転から新穀への警戒を引き下げた大手投機筋に買戻しを促すことを通じて、約定高値が更新された。

a. トウモロコシの米国需給バランス

トウモロコシの新穀の生産高予測は14.460百万ブッシェルと今年度実績か

_ 99 _

ら655百万ブッシェル(4.3%)の減産見込みとなった。繰越在庫が前年比205百万ブッシェル多い1,440百万ブッシェルと見込まれ、供給総量は15,925百万ブッシェルと今年度より450百万ブッシェルの減少予測になった。

需要面では飼料用途で今年度より275百万ブッシェル減の5,350百万ブッシェル,そしてエタノールを含む産業用途は5百万ブッシェル増の6,815百万ブッシェルとなり、国内消費合計は12,165百万ブッシェルと予測された。輸出需要は100百万ブッシェル減の2,400百万ブッシェルで、需要合計は14,565百万ブッシェルと今年度から370百万ブッシェルの減が予測された。

期末在庫は1,360百万ブッシェルと期首在庫を80百万ブッシェル取り崩し, 対消費在庫率は今年度末の9.6%から9.3%へと小幅な低下になるが,2015年 産から2019年産の5年間の平均が14.4%であったので、需給の逼迫化が定着 する見通しになった。

農家価格予測は今年度見通しの590セントから,675セントへの上昇が予測され,実現すれば大減産の年2012/13年度の689セント以来の高値になる。面積の減少に続いて単収も期待できそうにないとの,新穀の減産見通しが強材料と判断され、約定高値の更新に向かった。

b. トウモロコシの世界需給バランス

トウモロコシの新穀は米国で4.3%の減産に続いて、ウクライナで2,263万トンの大幅減産見通しが災いして、世界全体では3,490万トン(2.87%の減産)見込みで11億8,072万トンとの予測になった。世界の期末在庫は1.4%の取り崩しで、3億513万トンと予測された。なお、中国の粗粒穀物の輸入は500万トン減少し3,785万トンと予測され、2020/21年度の実績5,053万トンからの減退が目立っている。トウモロコシは、ウクライナからの輸入が減少して500万トン少ない1,800万トン、大麦の輸入が1,000万トン、そしてソルガムは950万トンの輸入と予測された。

6. ウクライナの新穀生産動向

米国農務省の5月度需給報告は、ウクライナの新穀生産動向を初めて本格的に考察した報告である。米国農務省は、この地域の軍事行動により、ウクライナをめぐる農産物需給の不確実性が著しく高まったので、考察はごく短期的なものだとする但し書きを付けているが、米国農務省の予測は下記の通りであった。(単位は、万トン)

生産高	20/21年産	21/22年産	22/23年産	相違
小 麦	2,542	3,301	2,150	▲ 1,151
粗粒穀物	3,959	5,351	2,656	▲ 2,695
内 コーン	3,030	4,213	1,950	▲ 2,263
油糧種子	1,985	2,432	1,650	▲ 782
内 ヒマワリ	1,410	1,750	1,100	▲ 650

輸出	20/21年産	21/22年産	22/23年産	相違	
小 麦	1,685	1,900	1,000	▲ 900	
粗粒穀物	2,815	2,911	1,103	▲ 1,808	
内 コーン	2,386	2,300	900	▲ 1,400	
油糧種子	405	420	450	+ 30	
ヒマワリ油	527	435	380	▲ 55	

20/21年度は確定値であるが、21/22年度は年度半ばで、ロシアの侵攻が始まったので、その影響は輸出だけになる。22/23年度は冬作物である小麦と大麦の播種は終わっていたが、春作物になるトウモロコシと油糧種子、中でもヒマワリの播種が大きな影響を受けることが想像できる。ネットで紹介された、5月10日段階のロシア軍のウクライナ侵攻状況は下図の通りであった。

この侵攻図に、米国農務省によるウクライナの生産地図を重ねることで、被 害の可能性を想像できる。小麦の栽培は、ウクライナの東部から南部が主産 地であるが、トウモロコシやヒマワリはそれよりもやや北側の中央部が主産

ロシアのウクライナ侵攻状況図(AFP)



地のように見える。言い換えれば、戦乱の中心から免れることで、春作物は うまく作付けできる可能性もあるので、米国農務省の予測はやや悲観的とい う見方もできる。輸出はアゾフ海がロシアの手に落ちたので、オデーサ港の 帰趨がどうなるのか、そこに向けての物流が円滑に行われるのかどうかに掛 かっているが、輸出見通しは白紙と考えたほうが現実的な見方であると思わ





れる。

そうなると、ルーマニアやポーランド経由の迂回路の可能性が検討され、部分的に実行に移されたと報じられているが、ウクライナの鉄道は広軌、欧州は標準軌なので、言うは易くの状態と思われる。日常性が壊れると、こんなところにもという不都合が起こりやすく、ウクライナからの穀物輸出は長期間に及ぶ中断が避けられなくなった。

7. 季節性が強まった、メモリアルデイ休日(5月最終月曜日) 明けの穀物市場

5月中旬までは天候不順で播種作業が遅延したが、メモリアルディ休日以降は、米国穀倉地帯の天気が穀物の生育に好都合な推移になった。大平原南部で冬小麦の収穫作業が北上を始め、中西部では遅れていた播種作業が最終段階を迎えたことが、米国農務省の週間作況作柄進捗報告で確認されたので、季節的な軟弱地合いが広まるかと思われた。ところが、大豆が約定高値の更新に向かうなど、3品ともに商品ファンドの買い増しによる反発を見せて、6月度の需給報告に接することになった。5月中旬からの下落で、小麦やトウモロコシは目先の安値を見たという判断であり、新穀の作柄に安堵感を持つには時期尚早と判断された。大豆は、テクニカルな相場反転のシグナルが無視され、ガソリン価格の高騰に示されるインフレ懸念による思惑買いが大豆油に波及したことや、旧穀需給の更なる引き締まり警戒感が押し目買いを誘うなど、6月の需給見直しが強材料に出ることへの警戒感による約定高値の更新であった。

8. トウモロコシの需給が緩んだ6月度の需給報告

6月の需給報告は、トウモロコシの期末在庫見通しが改善されて弱材料となった。大豆定期は、需給報告で期末在庫が引き下げられたが、事実の確認売りを誘って上げ足が止まった。

a. トウモロコシの米国需給見通し

旧穀年度の需給は輸出需要見通しが50百万ブッシェル引き下げられたことと、産業用途で糖化業界の消費増加5百万ブッシェルとが一部相殺となって、期末在庫見通しが45百万ブッシェル多い1,485百万ブッシェルに改定された。このため、新穀年度は期首在庫が45百万ブッシェルの増加となる一方、産業用途でも5百万ブッシェルの増加があったことで、新穀の年度の期末在庫は前月より40百万ブッシェル多い1,400百万ブッシェルになった。農家価格見通しは旧穀年度が595セント、新穀年度の675セントに変わりはなかった。

USDA需給報告(US産トウモロコシ)

	21/22年度			22/23年度			
報告月次	4 月	5 月	6 月	観測会議	5 月	6月	
作付面積	93.4	93.4	93.4	92.0	89.5	89.5	
収穫面積	85.4	85.4	85.4	84.2	81.7	81.7	
単収	177.0	177.0	177.0	181.0	177.0	177.0	
生産高	15,115	15,115	15,115	15,240	14,460	14,460	
期首在庫	1,235	1,235	1,235	1,540	1,440	1,485	
輸入	25	25	25	25	25	25	
総供給量	16,375	16,375	16,375	16,805	15,925	15,970	
飼料用途	5,650	5,625	5,625	5,650	5,350	5,350	
産業用途	6,785	6,810	6,815	6,840	6,815	6,820	
エタノール	5,350	5,375	5,375	5,400	5,375	5,375	
国内消費	12,435	12,435	12,440	12,490	12,165	12,170	
輸出需要	2,500	2,500	2,450	2,350	2,400	2,400	
総需要量	14,935	14,935	14,890	14,840	14,565	14,570	
期末在庫	1,440	1,440	1,485	1,965	1,360	1,400	
在庫率(%)	9.6	9.6	10.0	13.2	9.3	9.6	
農家価格	5.65	5.95	5.95	5.00	6.75	6.75	

注:面積は100万エーカー、単収はブッシェル・エーカー、生産・消費は100万ブッシェル。

b. トウモロコシの世界需給見通し

世界の生産高予測は、前月より510万トン多い、11億8,581万トンに引き上げられた。ウクライナでの作付面積が、政府の推定に合わせて修正されたことにより前月予測より550万トン多い2,500万トンに引き上げられた。貿易量は、作柄見通しの悪化により欧州の輸入が増加すると予測されるが、前年度の1億9,670万トンから1億8,267万トンに縮小となった。ウクライナからの輸出は1,400万トン減少して900万トンとの予測になった。期末在庫見通しは、前月予測より530万トン多い3億1,045万トンと見込まれたが、前年度末の3億1,092万トンとほぼ変わりがない。これまで生産高のほぼ全量を、輸出して来たウクライナは実質的に海上封鎖されたことで、旧穀年度末に677万トンの在庫を抱え、新穀年度末にはそれが1,207万トンに増加すると予測された。

22/23年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界6月予測	31,092	118,581	17,668	74,793	118,628	18,267	31,045
中国	21,024	27,100	1,800	21,400	29,500	2	20,422
除 中国	10,068	91,481	15,868	53,393	89,128	18,265	10,623
米国	3,771	36,730	64	13,590	30,913	6,096	3,555
除 米国	27,321	81,851	17,605	61,203	87,715	12,171	27,489
メキシコ	333	2,760	1,770	2,650	4,470	60	333
アルゼンチン	149	5,500	1	1,000	1,400	4,100	149
ブラジル	465	12,600	130	6,550	7,700	4,700	795
欧州	868	6,825	1,600	5,900	7,960	470	863
ウクライナ	677	2,500	0	950	1,070	900	1,207
ロシア	93	1,550	5	1,000	1,120	430	98
南アフリカ	238	1,730	0	730	1,330	370	238
東南アジア	514	2,986	1,740	4,090	4,895	58	268
韓国	205	8	1,150	920	1,155	0	208
日本	138	1	1,520	1,170	1,520	0	139

単位は10.000トン。

c. 大豆の世界需給見通し

世界の油糧種子生産高は、前月予測より微減の6億4,680万トンとなった。注目されるウクライナのヒマワリ減産は、カナダのカノーラや南米諸国の大豆の生産回復とで相殺される見通しになった。世界の大豆生産高は3億9,537万トンと前月より微増、前年度よりは12.3%または4,338万トンの大増産見通しになった。今年度産が大減産に終わった南米諸国は、次年度に作柄が大きく改善すると想定されている。アルゼンチンとブラジルで今年度の生産高推定が、それぞれ小幅に引き上げられ、アルゼンチンは単収の向上、ブラジルは面積推定の引き上げによるもので、期末在庫の改善に反映された。新穀年度は、中国の大豆輸入が回復する見通しになり、世界の大豆貿易量が9.2%増の1億7,031万トンに増加しても、期末在庫見通しは過去最高の1億46万トンと需給の緩和が見込まれる。

このように、トウモロコシは米国で前年4.3%または1,664万トンの減産予想を、南米諸国の増産で相殺する見通しに加えて、ウクライナの作付面積が前月見通しよりも大幅に改善されたことで、世界の消費規模に見合う新穀の

22/23年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界6月予測	8,615	39,537	16,712	32,718	37,786	17,031	10,046
中国	3,074	1,750	9,900	9,500	11,559	10	3,156
除 中国	5,540	37,787	6,812	23,218	26,227	17,021	6,890
米国	558	12,628	41	6,137	6,478	5,987	761
除 米国	8,057	26,909	16,671	26,581	31,308	11,044	9,285
メキシコ	50	30	635	660	665	0	50
アルゼンチン	2,065	5,100	480	4,100	4,825	470	2,350
ブラジル	2,186	14,900	75	4,900	5,235	8,850	3,076
パラグアイ	9	1,000	1	325	341	650	19
欧州	96	300	1,500	1,610	1,793	22	81

単位は10.000トン。

作柄が確保できる見通しになった。大豆は、南米諸国の生産が回復するとの 見通しで、実現すれば需要を大幅に超える供給体制になる。

国際需給の引き締まりは、通常最後の供給者として世界が認めている米国市場への輸出需要になって顕在化することが一般的であるが、6月の需給報告は旧穀年度の大豆の輸出見通しが30百万ブッシェル引き上げられて、その仮説を証明した。一方、トウモロコシは、ウクライナからの供給を当て込んでいた中国からの振替需要が500万トン程の買い付けで終了し、それ以降は伝統的輸入国に向けの最低限の輸出成約になったことから、米国農務省は6月の需給見直しで、輸出需要を50百万ブッシェル引き下げた。

9. 米国ドル高と穀物市場の季節性が圧迫材料に

トウモロコシは高温乾燥型の天気予報が支援材料となって、6月中旬は新穀旧穀共に50日移動平均線を超えて買い進まれた。旧穀限月は8ドル台に挑戦したが、米国ドル高や原油の急落が上値を抑制した。大豆も外部市場の景気減速懸念と米国ドル高が圧迫材料になる中、初回の作況評価が予想より良好なことが嫌気され、商品ファンドの手仕舞いに急落となった。

6月の需給報告では今年度の米国産トウモロコシの輸出見通しが50百万ブッシェル引き下げられたが、直近の輸出成約報告は今期の最低で発表され、新穀の成約も旧穀同様に低調なものであった。ブラジルの2期作トウモロコシが出回り始めて、国際市場の供給環境が改善されると同時に、北半球で麦類の収穫が進むことで、地場の飼料穀物の需給が改善するため、敢えて高値の米国産トウモロコシを調達することもないというのが、世界の実需者の都合と思われる。

また、新穀年度に移った小麦の成約進捗が前年度よりも遅いということで、いかに米国産が割高になっているのか、または国際機関が心配するほどには、世界の穀物需給は逼迫化していない。それとも、単にこれまでの安値供給者であったウクライナからの輸出が中断しただけで、割高になる

ことを覚悟すれば供給者は多いという国際市場の姿が示されたことになる。 そして、ウクライナが大きな割合を占めるヒマワリ油の供給不足が、昨年 のカナダの菜種減産、アジアのパーム油の供給減少等と重なり、油糧種子 全体に対する需給の引き締まり感を強めたが、実際の輸出成約になって実 現した数量は限られていた。多分に、原油相場の動きと連動させた、投機 筋の思惑買いであったと思われる。播種時期が終わりに近付くにつれて、外 部市場のインフレの高進と共に、海外実需家の高値警戒感を反映した輸出 成約の停滞が顕著になった。 (2022年6月25日記)

秋季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

なお、今回も会場開催と同時にweb配信を行う予定です。どちらでのご参加を希望されるかも、お申し込みの際ご連絡いただきますようお願いいたします。

記

日 時:令和4年9月14日(水 14時~15時30分 (会場開催の受付開始13時30分~)

場 所:新橋ビジネスフォーラム http://biz-forum.jp/access.html 港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル 8 F TEL 03-5843-9169

演 題:「今後の景気と為替の見通し」(仮題)

講 師:三菱商事㈱財務部チームリーダー 藤田様

参加料:無料(定員となり受付できない場合のみこちらからご連絡差し上げます)

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

Email: jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp (宮本宛)

又はjfta-nishida.f@snow.ocn.ne.jp(西田宛)

編集後記



食用油の廃油から航空燃料を作るという話がある。廃物利用で素晴らしいというトーンで航空関係者は自画自賛し、マスコミもこれに同調する。それ自体が悪いことだとは思わないが、これまでも廃油は捨てられていたわけでなく、動物の飼料として活用されていたことは、本誌の読者ならご存知の通りである。動物の食べ物を燃やすの?との違和感はぬぐえない。

自動車メーカーは、シートで使用していた革を別の素材に切り替えるという。アニマルウェルフェアが理由と聞き、何か中途半端な気持ちである。

我々は、動物だけでなく、植物も含めて、命をいただいて生きている。例 えば穀物。穀物は種であり、それ自体が発芽して新たな子孫を残すことを繰 り返す能力を持っている。穀物を卵に見立てれば、穀物を食べることは、動 物の命をいただくことと本質的には同じだということがわかる。

食べるためにいただいた動物の革は、色々なものに活用されている。革を 得るためだけに命を奪うことには疑問を感じるが、我々に肉を食べさせるこ とで命をくれた動物の革を活用することは、その動物に対する感謝の気持ち の表れであり、資源の有効活用という観点からも有意義だと思う。

一定のリサイクルシステムが確立されているところに、廃油の新たな用途への利用、革の不使用という流れが入ることで、既存のシステムが破壊される可能性がある。表面的にいいことをやっているつもりでも、実はそのシステムを破壊することに気づかず、結果的にマイナスになっていることはないのか、よく考えて可否を判断していく必要がある。

さて、6月8日の海運セミナーで、最新の不定期船事情を体系的にお話しいただいた。35年前に学んだことからの変化にも驚いた。若手が基本を学ぶことはもちろん、ベテランも現状を再認識できる機会になったと思う。

講演では、ウクライナ関連の話題にも言及があった。前回の為替、エネルギー関連の話もそうであったが、講演会でタイムリーな話題に触れていただけており、本誌への再録を含め、読者には幅広くご利用いただきたい。

Feed Trade 第58巻第3号·令和4年7月15日発行